

躍動

TGスポーツOB連合会報
創刊号
平成21年10月30日発行
企画広報委員会編集
(躍動・本間良一会長書)



創刊によせて

TGスポーツOB連合会 会長 本間良一
(昭和33年 文経卒)

TGスポーツOB連合会はかつて東北学院大学体育会に所属していた同窓生によって昭和47年設立され、現在応援団を含め45部、1万人を超える会員が居ります。

そして「東北学院スポーツの振興と発展のため物心両面の援助を図るとともに会員相互の融和と団結を図り母校の隆盛に寄与する」ことを目的に活動しています。

さて、本年5月東北学院同窓会総会に於いて同窓生の一人から「最近東北学院の情報が非常に少ない。特にスポーツに関しては殆どが東北福祉大学か仙台大学のニュースばかりで淋しい」との指摘がありました。

そんな中我々TGスポーツOB連合会では此度かねてより懸案事項であった「会報」を発行することになりました。

皆さんご承知のことと思いますが昭和30年代の東北学院大学体育会は準硬式野球部が全国大会で優勝。サッカー部が全国大学選手権で準優勝する等東北の雄として多くの部が全国大会で活躍しました。

更に最近では昨年プロ野球日本シリーズで埼玉西武ライオンズの岸孝之投手がMVPを獲得、本年春の叙勲ではヨット部OBの高橋順一氏がこれまでの功績が認められ旭日双光賞を受賞、その他空手の世界チャンピオン、柔道の世界マスターズ優勝者等優秀なOBが沢山居ります。

一方現役の方でも陸上部の佐々木美歩さんが天皇杯日本学生選手権の走り高跳で準優勝、自転車部の桜井正孝君が国体成年自転車ケイリン競技で優勝。更には準硬式野球部が全日本大学選抜で優勝する等大いに頑張っています。

TGスポーツOB連合会ではこの様に活躍した個人及び団体に対し会則に基づき今日まで418件の表彰を行って来ました。

今後は、この様に活躍された選手や団体、更には現役学生との活動状況を定期的に発信して行きたいと思っておりますので何卒ご指導の程宜しくお願い申し上げますとともに、この会報が皆様の今後の活動に少しでもお役に立てれば幸いに思います。

最後に今般会報発行に取り組んでいただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げ、TGスポーツの更なる発展と母校東北学院の益々の隆盛を祈念し発刊のご挨拶とさせていただきます。



創刊号に寄せて

学長 星 宮 望

TGスポーツOB連合会会報創刊にあたり一言、ご挨拶を申し上げます。

貴会は、昭和46年（1971年）に全国的な大学紛争の中で、本学にも非常事態宣言がだされ、同窓生有志が母校を思い教職員支援のため学内警備体制を組織されたのが始まりだと伺っております。翌昭和47年（1972年）に「TG春秋会」という名称で発足、平成6年（1994年）に「TGスポーツOB連合会」と改称されました。現在では、体育会所属44団体に応援団を加えた、45のOB会で構成され、会員は15000名を超える大きな組織となりました。

TGスポーツOB連合会の創設期、大学紛争の中で同窓生有志が自発的に教職員支援のために立ち上がり学内警備体制を組織した点に注目したいと思います。この行動に、まさに本学の建学の精神が表れているのではないのでしょうか。

建学の精神を表している言葉として新約聖書マタイによる福音書5章13節の「地の塩、世の光」の箇所があります。塩は、料理に使われますが塩気がない、あるいは塩だけが自己主張しても意味がありません。塩というのは周りの味を引き立て、自己主張をせず、世の中がよくなるように引き立てること。これが「地の塩」です。光とはまさに周りを明るくするもので、世の人々を照らす存在であれということです。種目は異なっても、学生時代にそれぞれのスポーツに熱心に打ち込み、自分自身の限界とそして弱さと向き合った経験があるからこそ、建学の精神を自然に実行に移されたのだと言えましょう。

近年、本学体育会の活躍は著しく、プロスポーツに星選手（巨人、硬式野球部出身）、岸選手（西武、硬式野球部出身）を送りだしております。これもTGスポーツOB連合会の皆様の御指導・御支援の歴史があつての賜物です。これまでの御支援に感謝すると共に今後も一層のご支援をお願い申し上げます。

貴会が、その伝統である、建学の精神と学生スポーツという二つの基本を大切にされながら、さらに発展されることをお祈り申し上げ挨拶とさせていただきます。



TGスポーツOB連合会「会報」の創刊を祝して

学生部長 辻 秀 人

このたびTGスポーツOB連合会の会報が創刊されるとのこと、心よりお祝い申し上げます。本学の45の各部OB会が活動し、なおかつ各部OB会をつなぐ連合会が各部OB会の結束と活性かを図る事業を展開されますことに敬意を表したいと思います。

さて、TGスポーツOB連合会は昭和47年にTG春秋会として発足され、以後東北学院大学体育会OB連合会を経て、現在にいたるまで、実に38年の長きにわたって活発に活動されてきたと伺っております。その

間、本学の各種記念行事、同窓会の記念事業等に積極的に参加され、その成功の重要な役割を果たされてこられたことに心から感謝申し上げます。

本学のモットーは、学生の心を育てることにあります。体育会はまさに、スポーツの鍛錬を通して学生諸君の体を鍛え、ともに汗を流す仲間と交流し、勝敗を争う中で心を育てる重要な活動の中核を担っていると考えております。私ども学生部といたしましても、体育会の活動を本学の教育活動の中の重要な一環として位置づけ可能な限りの支援をおこなっております。

現在、本学の体育会は、佐々木俊三体育会長のもと、目下男女合わせて47団体が精一杯の活動をしております。大学としては中でも優秀な活動をし、各種大会で活躍する部を特に強化部に指定し、いっそうの応援をしているところであります。各部の活動にあたりましては監督、コーチのご指導はもちろんのこと、いつもあたたかく物心両面のご支援をいただいているOBの皆様の存在はまことに心強いものがあります。今後とも後輩諸君への応援、ご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、会報の創刊を機に、T GスポーツOB連合会のますます発展されますことを祈念し、ご挨拶といたします。



「武」と「生きる技」

体育会会長 佐々木 俊 三

『字通』によれば「武」は「止」と「戈(か)」から成り、「止」は「歩」の略形で、「戈(ほこ)」を執って前進することを歩武という」とあります。すなわち武器をもって前進することが「武」の原意です。戈は「ほこ」と訓じますが、「矛盾」の「矛(ほこ)」と違うのは、枝のない戈が矛だといえます。戈が「我」や「義」の系列字であり、「我」は「のこぎり」のことなので、戈とは木の先頭に先鋭な石や鉄をつけて敵を割り裂く武器を謂うのでしょう。古代の武器にはこの「戈」や「矛」、「槍」や「盾」、「戟(げき)」や「弓」、「劍」や「刀」がありました。敵の侵入があれば敵から身を守り、守りを攻めに転じて敵を殺すための道具でもありました。これらの語はすべて、闘いや戦さに結びついています。

『魏志倭人伝』に「武器には、矛・盾・木の弓を用いる」とあります。弓の中央に矢をつがえて強く引き絞る構造の弓を「弩(ど)」と言いますが、中国(むしろ中国北部)で汎用されていたこの型の弓に対し、倭の「木の弓は下を短く上を長く」とすると、『倭人伝』の作者は物珍しそうに記載しています。ところがこの倭の型の下寄りをにぎる弓は、中国南部、台湾、鹿児島南部の島々にあつて、いずれも魚を射るのに有利なにぎり方だったそうです。

「武器」はただに敵の士を殺す道具だったわけではありません。むしろ獲物を捕るといふ、生活の必要から転じて発達したにちがいないのです。「弩」にしても、これが狩猟に際しての罟や仕掛けに利用されて発達したことが想像されます。敵を倒し殺す道具となる前に、獲物を狩猟し肉を裂きこれを分配するための生活の道具が武器でした。「生きる」ことが困難な時代には、獣類や魚類との知恵比べにおいて敵を凌ぐ工夫を引き出すことは、死活の問題だったでしょう。この工夫のために武具が発明されました。「武を尊ぶ」ことは実は「生き抜く」ことに見事に直結していたのです。ところが、平和を尊ぶ今日、「武を尊ぶ」ことは

あまり好まれません。

今日、「生きる」ことが安易で簡単な時代になりました。そのことによって「生きる」ことにとって「武をもって闘う」という側面が忘却されていきました。そればかりではありません。数限りない戦争経験への反省から、戦争と結びつく「武」の側面ばかりが強調されて、いきおい「武」が「生きる」ことと結びつく側面をも否定していったように思います。「生きる」ことが「より良く生きる」ことにつながり、「より良く生きる」ことが智慧を鍛え強く生きていく術を学ぶ教育につながるならば、「生きる」ことにおける「武を尊ぶ」こともまた教育にとって重要な中核を構成するものだと考えます。

大学教育にとってスポーツがもつ意味と意義について、もっと突っ込んだ議論が必要だと思います。大学教育の伝統を形成してきた「スポーツOB連合会」が、今回、会報を創刊することに祝意を述べたく思います。これを機に、教育にとって「武」が持つ意味を議論していく機会となり、東北学院大学のスポーツ的伝統がいっそう強化されていくことを期待し、実現に努力したいと思います。



発刊にあたり

TGスポーツOB連合会 理事長 高橋 富士男
(昭和45年 法法卒)

本会の前身は「TG春秋会」として昭和47年（1972）に体育会OB有志により設立されたが、時流もあり平成6年（1994）の臨時総会において「TGスポーツOB連合会」と会の名称が変更された。

そして、第1回の総会から始まった勲功章であるが、その第1号は卓球部の板橋美恵子選手に贈られ、今年度の総会において第418号までが贈られた。それなりの年月と本会の活動ぶりを表していることにもなる。年月とともに会員数も物故者も含めてであるが1万名を超える大きな組織となった。

しかし、大きな組織になってくるとなかなか連携プレーもうまくいなくなる傾向にあることも否めないことである。そこで各部OB会の活動状況やまた各界で活躍の諸先輩方、活躍の選手などを紙ベース（会報）で紹介し、ひとりでも多くの体育会OB・OG各位の目がTGスポーツに向けてくれれば僅かながらでも活性化への一助になるのではないかと、先ずはやってみよう、とのことで今回の会報発行にこぎ着けた次第である。

今年5月の常任理事会で提案し会報の発行を決定し、企画広報委員会が担当して10月の発行としたが、時間的にも余裕がないことから、とりわけ企画広報委員会の鈴木浩委員長（陸上競技部）にはいろいろとご心労をおかけした。ご多用の中を星宮望大学長や辻秀人学生部長、そして佐々木俊三体育会長から早々の原稿を頂戴した。また各部OB会の会長さんをはじめ各事務局からの協力もありがたいものであった。

会報の表紙に「躍動」の二字をつけた。専門委員会を経て本間会長に了解をいただいたが、TGスポーツと本会のこれからの行動に期待を込め、本間会長に筆をとっていただいた。

さて、本会の活動目的は会則にもあるように、TGスポーツの振興と発展のため物心両面の援助である。今のところは財政的に潤沢な状況になく勲功章の授与に留まっているが、専門委員会の財務委員会を中心に知恵を出し合っていただき、全国大会で特に優秀な成績を収めた選手への金一封くらいは用意したいものである。

学生諸君がT Gの看板を背負ってそれぞれのフィールドで活躍し、そしてT V、新聞等で報道されることは全国にいる同窓生の誇りであり、大きな宣伝効果であり、はたまた母校への帰属意識の高まりにつながることである。

早稲田大学が全競技の学生日本一を目標に掲げたと言い、慶応もその様子を見ているとのこと耳にします。関西地区では関関同立がライバル心丸出しともいえる強化策はご存知のとおりです。それには大学当局の理解もさることながらO Bの力も大きな存在のようです。

わが東北学院大学にはスポーツ寮もなく、また活躍した選手への奨学金制度もなく、そして、指導者がその競技に専念できる制度、職場もなく強化に向けて決して恵まれた環境とは言えませんが、これらのことについて大学当局といろいろと地道ながらも交渉することもO B会組織の本会の目的達成のために必要なことであると考えます。

本学はあと2年後に創立125周年を迎えます。そして本会も設立年から計算すると3年後には40周年を迎えることになります。その時にはT Gスポーツの更なる活躍の記事や、紙面も創刊号よりも何倍も厚い会報でありたいと願っているところです。

今回の発行に広告協賛をいただきました各O B会、各企業、そして発刊に向けてご指導いただきました東北プリントさん（ワンゲルO B・藤井治夫社長）に厚く御礼を申し上げます。



TG スポーツOB 連合会会報発刊にあたり

企画広報委員長 鈴木 浩
(陸上競技部O B会会長)

このたびT GスポーツO B連合会会報の発刊されるに至り一言述べさせていただきます。

まず、最初にこの編集に当たり、全てを取り仕切って頂いた、この会の理事長・高橋富士男さんに謝意を表します。

さて、この会報発刊の話があった時、私個人としては正直、同じスポーツO Bでも他部のことにはあまり関心もなく、はたして発刊しても他部のことに関心を寄せ購読してくれる人はどの位いるだろうかと、危惧を致しました。

しかし、良く考えてみれば、現在各部のO Bの皆さんが抱えている問題は共通点がいっぱいあるのでは、中でも一番の共通問題は如何にして部を強くするか、また各部のO B会の会員に対する意識付けなど等・・・

このような問題を共通の話題とし紙面上で意見交換し合うことも可能ですし、また意見交換の延長戦で理事会においてのデスクッションなど、前向きな姿勢での会報利用も一手段ではないでしょうか。

是非各部O Bの皆様には、おおいに関心を持って会報をご覧いただければと思います。

尚、皆さんからの忌憚りの無いご意見などお寄せ頂ければ幸いです。

アメリカンフットボール部OB・OG会活動

アメリカンフットボール部OB・OG会副会長 高橋 公晴
(昭和56年 経経卒)

我がアメリカンフットボール部は昭和48年に故柴田誠先生と当時学生課におられました佐藤順先輩のお力をお借りし、立教大学OBの砂川繁雄コーチのもと12名の部員で創部いたしました。

当時東北の大学では、日本大学の学部リーグで活躍しておりました日大工学部（郡山市）1校だけで、同年に東北工業大学、翌年に仙台大学、北里大水産学部と創部され、昭和52年に新潟の日本歯科大学を含めて6大学で東北学生アメリカンフットボール連盟を立ち上げリーグ戦をスタート致しました。

リーグ戦開始3年間は日本大学の学部リーグで活躍しておりました日大工学部が優勝で2位に甘んじておりましたが、「東北の雄」が歴史ある東北学院大学体育会の最低条件と教えられ、昭和55年、56年と連覇しその後は東北リーグの中心チームとなり活動しておりました。

東北学生リーグも参加大学が増え10大学となりましたが10年程前から入部希望者が減り6年前に部員不足により2部へ降格となりました。

創部30周年記念式典の際、今は亡き柴田誠先生が自分に言われた言葉で「いいか、クラブが衰退していく最大の原因はOBに情熱がないからだ」と叱咤激励をされました。

それから菊地弘部長先生はじめ監督、コーチ、現役そして我々OB・OGがひとつのチームとなり情熱をもってチーム建て直しをはじめ、昨年より北海学園大学定期戦を復活し、本年度は勝利得点に貢献することができ、本年度リーグ戦では1部昇格し、来年以降は本学体育会の名誉を汚さないよう邁進していく所存でおります。

我がクラブの部歌の一節に「4年は3年を苛めます。3年は2年を苛めます。2年は1年を苛めます。1年は来年苛めます。」というフレーズがございます。大好きな詩でこの『苛め』は体育会独自の、深い愛情と情熱を表していると思います。

今年より「OBは現役苛めます」を追記しOB／OG会が情熱をもって、アメリカンフットボール部の発展、体育会の隆盛に努力して参ります。

まだ創部35年の若いクラブでございます。お力添えの程宜しくお願い致します。

元OB会長として

空手道部第四代OB会会長 嶋津 紀夫
(昭和37年 文経卒)

TGSスポーツOB連合会々報発刊、誠にめでとございます。会報を通じて各OBが互いに協力し合い、目的に向かって一体となり、将来の本学の発展の一助になればと願うものであります。

私共の空手道部は本年で65周年を迎えようとしております。私が23年間会長として務めさせていただき間に、創部50周年という大きな節目を祝う時期がありました。そしてこの節目を機にOB会の更なる発展を願い、記念誌の発行やそれまでのOB会組織の再編成、またそれに伴う事業計画の作成等、各学年のOB2～3名を幹事に選出し、東奔西走したことを覚えております。我が部は特に先輩・後輩の礼儀は絶対なものがありますから、歳の離れたOB全員が丸となれるよう、心のふれあいを大切に、対話を繰すことに時間を要しました。また、どの部も同じ悩みがあると思いますが、そのひとつは会の運営資金の調達で、当時はOB会費がなかなか集まりませんでした。そこで事業計画の遂行のために考え出したのが、空手とは少し離れますが何かイベントを開催しようという事でした。私の友人で日本のエレキギターの大御所であり、関東学院大学空手道部OBでもある寺内タケシ氏に、空手道の繋がりということもありご協力いただき、コンサートを開催したり、また眞打ちの噺家を招いて落語の会を行う等、各OBが懸命にチケットを売ってすべての会場を満杯にしたことは忘れる事ができません。そして、この収益金はOB会費として納入し、現

役学生に対する援助や監督・コーチの旅費等に充て、またそれまで経験したことのないオーストラリアへの海外遠征を実現し、現地での学生諸君の交流等に役立てました。この事はOB会としての強力な意思統一を図れました。さらに各OBの後輩をそして母校を愛するこの気持ちは、まさに本学が目指す「L I F E L I G H T L O V E」の3L精神から築かれたものと思います。

どんなスポーツ競技にも共通して言えることだと思いますが、ルールを尊重し、相手の選手に対する尊敬や賞賛を忘れず、己の技を磨き、そしてなによりも心の鍛錬こそが最も重要なことだと思えます。先輩後輩のけじめは勿論、尊敬される人格形成に努め、常に謙虚な精神を養い、一端義をみて立てば万人の敵とも言えども恐れぬ勇気を持つことこそ、本当のスポーツマンであると思えます。

本会報の末永きご継続と、本学の益々の発展を心から祈念いたします。押忍

「弓道部の創立50周年を迎えて」

弓道部OB会会長 熊谷 聖
(昭和41年 文経卒)

○前身

戦前の東北学院（専門部）の弓道部に関して資料は一切残っておらず、伝え聞くところによると、土樋キャンパスに道場があり、当時、日本弓道界の第一人者、弓聖といわれた阿波造範士の指導を受け活動したと伝えられております。

○創部

昭和30年初代監督の佐藤正好氏により「弓道愛好会」が発足されました。

初代師範に上野栄三郎先生を迎え、十二軒丁（現在の八幡町）にあった上野道場（東宏山道場）に通い稽古に励んできた。

昭和34年体育会弓道部に昇格し、現在の弓道部が創設されました。

○当時の活動

昭和35年発起校として東北学生弓道連盟を結成、発足時の加盟校は東北学院大学・東北大学・福島大学・山形大学の4校であった。

初代会長は桐原幸雄先輩が就任し、昭和35年6月に第1回東北学生弓道大会が開催されました。

又この年に全日本学生弓道連盟に加盟して翌36年には第9回全日本学生弓道大会、第9回全日本学生王座決定戦、第7回東西学生弓道選抜対抗等に初出場をした。

更に東北学生親善弓道大会を開催して、東北地区学生総体の正式種目へのアピールにより、翌37年から開始した。

○弓道場落成

この頃の稽古は八幡神社境内の弓道場で行い、授業の空き時間を見ながら市電で通っていました。

昭和38年二代目師範に西村千代子範士を迎え厳しい指導を受けた。（西村千代子先生は日本最初の女性弓道範士で宮城第一女子校長など経て、宮城県議会議員等も務めた）

稽古の時間を多くするため、OB、部員による募金活動や材料の調達などにより、決して立派な造りの道場ではないが、部員の情熱と熱意により、念願の4人立の道場が土樋キャンパス内に完成した。（この道場は平成11年研究棟新設のため取り壊された）

○全日本初制覇

キャンパス内に道場ができ、練習量は数倍に増えて実力も急上昇して来たとき、昭和40年三代目師範に小沼修吾範士を迎える。（小沼先生は温厚で情熱をもって学生を指導し昭和57年逝去されるまで学生



第13回全日本学生柔道選手権大会優勝
(1965年(昭和40年)7月22日 土樋キャンパス弓道場にて)

弓道に尽力された)

実力・気力も充実し2年前にはベスト8まで進んだ全日本学生弓道選手権大会において、運良く男子団体優勝ができました。

○栄光の歩み

全日本制覇は自信と励みを与えて、常に目標を高くもつようになった。

昭和55年	全日本女子王座決定戦	準優勝
平成5年	全日本女子王座決定戦	優勝
平成6年	全日本学生選手権女子	準優勝
平成7年	全日本女子王座決定戦	準優勝
平成8年	全日本女子王座決定戦	優勝
平成12年	全国大学弓道選抜男子	3位
平成12年	全日本学生選手権男子	4位
平成13年	全国大学弓道選抜男子	3位
平成14年	全日本学生選手権男子	4位

○最近の状況

10年前頃から東北の各大学のレベルが上がってきており、本学のレベルは変わらないために、東北でも上位に入ることが困難になっている。

○OB会

昭和40年頃に発足していたが、定期的な総会等はなく、必要なときに会長が集合をかけていた。試合では選手に近い年齢のOBが応援に行っている状況でした。

新入部員歓迎会や卒業生送別会等にはOBも数名参加しており、学生とOBのコミュニケーションを図っていた。近い年齢同士では時折集まっているようだが、年齢が離れると集まるのは難しい。

そこで、今年創部50周年を迎えるので、年齢差のあるOB達一堂に会し50年を祝い、今後のOB会運営のあり方を研究したいと考えています。

「剣道部部章と由来」

剣道部後援会会長 齊藤 東志男
(昭和49年 経経卒)

東北学院大学体育会剣道部には、部歌および部章があります。今回は、昭和40年に制定されたといわれています部章に関して、平成8年に発刊されました東北学院大学剣道部七十五周年記念誌に掲載された文章を紹介させていただきます。

この文章を書かれた伊藤素行先輩は、学生時代においては2度の東北選手権の覇者として活躍され、卒業後も後援会活動に積極的に参加され、長年にわたり後援会長を引き受け、剣道部創部75周年記念事業を成功させた偉大な先輩でありましたが、平成18年に多くの方々に惜しまれながら他界されました。

伊藤素行先輩が考案された剣道部の部章は、未来永劫に受け継ぐこととなります。あらためて先輩の功績に感謝するとともに哀悼の意を表します。



「剣道部部章と由来」

○部章

○由来

幻の部章選考委員会

伊藤 素行
(昭和42年 文経卒)

部章は昭和40年(1965年)に制定されたと記憶しております。

当時も我が部は東北の覇者として県外遠征の機会も多く、その存在を全国に知らしむべく、また部員の団

結の証として部章が必要との結論に達し、その意匠は部員より公募し、採用の暁には部費を2～3ヶ月分程度免除するといったものでした。応募多数の場合は選考委員会を開催し厳正に審査する。よって委員は昼メシ、代返等の賄賂は一切受け付けないとのキツイお達しでした。

時の主将大沼武久先輩、主務遠藤輝夫先輩、会計渋谷拓夫先輩の御代と記憶しております。

私と致しましては部費免除の魅力にはどうしても抗し切れず、学校所在地の仙台を代表する伊達政宗公の騎馬像の兜と面頬を中心に配し、刀の鍔の形に東北学院のTGを組み込んだ意匠で応募致しました。

この圧倒的に斬新な意匠に他の応募者は気後れし、応募を取り下げたしまい、応募作品は私の提出したものであったようです。

当然の帰結として私の作品は選考委員会を経ずして採用となった事は言うまでもありません。然しながら、あれ程魅力的であった部費免除が実行に移されたか否かは私の記憶にはないのであります。

但し、私の作品が採用されるよう他の応募者に応募しないよう圧力をかけるとか、昼メシ代返等の贈賄の不正な行為は絶対なかった事は今でもはっきり覚えております。

私の遠い青春時代の忘れかけた思い出です。それはまた、先の第二次世界大戦で完膚なきまで打ちのめされた敗戦国日本が、東京オリンピックを成功させ、東海道新幹線、名神高速道路開通、製造業への就労人口が農林漁業のそれを上廻り、OECD加盟、IMF18条国へ移行といったように日本が国際社会の一員として、近代工業国家の道を歩み始めた頃の出来ごとでした。

「我がゴルフ部の活動状況」

ゴルフ部監督 大友 富雄
(昭和55年 経経卒)

我がゴルフ部は昭和39年にゴルフ同好会として発足し初代部長に森健一先生よりはじまり2代部長・中村雄志先生、3代部長原・征明先生、そして現在の4代部長・村山貴俊先生となっております。

監督も初代監督・宮本理吉氏、2代監督・兪政价氏、3代監督・五十嵐一弥氏、そして現在の大友富雄監督に至っています。近年は念願の関東学生男子Bブロックに昇格し、日本一レベルの高い関東学生Aブロック昇格を目指して努力しております。現在4年生男子には青山怜央君が頑張っており今年度の日本学生選手権でも6位入賞をはたしております。また女子においても一年生に双子の姉妹、加賀谷麻美、加賀谷成美が加入し在校生で中国からの4年生留学生、李善英さんと力を合わせてこの一年の間に春秋と優勝を重ねついに来年2010年度はBブロック昇格となりました。

これもひとえに大学関係者、OB・OGの皆様のご支援があったることと深く感謝申し上げる次第です。文武両道の本学の精神にのっとり今後も指導していきたいと考えております。



2009秋季Cブロック優勝を飾る！
加賀谷姉妹(双子)一年、留学生 李 善英さん

発刊によせて

サッカー部OB会会長 松 谷 一 夫
(昭和41年 文経卒)

東北学院大学サッカー部も今年で創部85年を迎えました。大正13年に故千葉幸夫先輩が中心になり創部されて以来、今日まで600名を越える多くの諸先輩方を社会に輩出してまいりました。

OB会が発足したのが昭和58年であります。組織的に活動を初めて27年と未だ日が浅い会ではありますが、強かった草創時の先輩方には宮城県はもとより東北、布いては日本サッカー協会の重鎮を成してこられた先輩もおります。

この会の会長であります本間先輩もその中の一人であります。現役時代は全国大会で準優勝した時の主軸であり、後に日本リーグ強豪の三菱重工に進まれ選手として活躍されました。後にヨーロッパ勤務を命ぜられドイツ駐在中には日本サッカーチームがドイツ遠征合宿の際のお世話を一手に引き受けておられました。私が訪れた際も案内等をいただき大変お世話になりました。

Jリーグ発足時には功績を称え、日本サッカー協会より功労の榮譽を受けられました。現在もJリーグのキャリアサポートセンターにおいて、サテライト（2軍）東北担当でJリーガーの就職（他チームへの移籍等）のお世話と、Jリーグを目指すチーム（準加盟）のアドバイザーとして活躍しておられます。

故佐藤秀臣先輩には、宮城県と東北サッカー協会の会長をなされながら、東北学院大学蹴球部の指導をしていただき、持ち前の気骨と気概で全国大学選手権大会等において、東北の雄としての地位を築いていただきました。当時の部員にとっては、良き思い出として残っていることと思います。

OB会の関わりの中で最とも大切にしてきた行事は、青山学院大学との交流であります。今年の交流はサッカーのOB戦が40回、前日行われるゴルフコンペが30回と記念の大会でありました。ゴルフコンペと懇親会には、東北学院の同窓生にも沢山ご参加をいただき交流の楽しさを満喫していただきました。

青山学院からは、30名を越える諸先輩が来仙され、家族的な雰囲気の中、思い出多い楽しい交流を持つことができました。

OB会は、現役あつての会であるここは、どちらのクラブも同様であるかと思えます。我がサッカー部はこれからも益々OB・現役の関わりを強化し、更なる飛躍をしてまいる所存であります。

最後になりましたが、TGスポーツOB連合会の益々のご発典をご祈念申し上げますと共に、今回の“飛躍”発刊にご尽力をいただきました事務局の皆様方に心から感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

山 岳 部

TG山岳会会長 松 倉 和 義
(昭和36年 文経卒)

東北学院大学体育会山岳部（TGAC）並びに東北学院大学山岳会（TG山岳会）の生い立ちから現況

会報の創刊にあたり、現役山岳部と当OB会のご紹介をいたします。

東北学院大学体育会山岳部は、昭和15年頃山を愛する学生有志により産声をあげました。しかし戦時下では活動もままならず昭和22年に再建され現在に至っています。当時の諸先輩には現在の登山活動の基礎を築いていただいたものと敬意を表するものであります。

その後昭和30年には東北学院50周年記念事業のひとつとして、蔵王山中に山小舎「TG HUTTE栄光」が建設されました。しかし昭和53年一般卒業生による不注意から焼失、翌54年再建されましたこの2回に亘る建設作業には内外から多くの方々のご支援があったことも忘れ得ないことであります。感謝申し上げます。その後の山岳部の活動は、このヒュッテ完成を機として昭和31年発足致しました。当会の運営は、次の組織により実行しています。会長・副会長・幹事長・事務局長・総務委員会・企画委員会海外登山研究兼ヒマラヤ遠征委員会・会報編集委員会・会計委員会会計監事・山岳部監督・コーチ・アドバイザー・県岳連委員会・TGヒュッテメンテ委員会であります。

年次活動は、調査表に記載されますのでご参照下さい。今年第53回を迎える「TGヒュッテ栄光」の記念祭は、例年どおり10月に開催されます。学校当局からの出席も賜り、感謝を込めて早天祈祷会から始まります。現在の悩みとしては、「現役部員減少」「会員高齢化」「財政（会費）」です。

少林寺拳法部の歴史と現役への期待

少林寺拳法部OB会会長 本 間 盛 男
(昭和48年 経商卒)

少林寺拳法部OB会は、一期生の卒業に合わせ1969（昭和44）年4月に設立され、来年で40周年を迎えます。本学の長い歴史からみれば、決して古参の組織とは言えませんが、この40年で生まれた伝統や仲間同士の絆は決して軽いものではありません。

創部当時は、練習場所の確保も難しく、広瀬川の河原や校舎の屋上、あるいは神社の境内など場所を転々として練習。その結果、拳法着はボロボロ、足の裏はズタズタという状態でしたが、少林寺拳法を学びたい、強くなりたいという強い志だけは誰にも負けるものではありませんでした。また、その時代には各部の方々には随分と助けられました。道場や練習場を快く貸していただいたり、多方面にわたって支援をいただいたことには今でも感謝の気持ちでいっぱいです。その友情の絆は今日までも続いています。

そういう学内の仲間の援助と他大学に負けない練習量が裏づけとなり、この40年間に各種の大会において多くの実績を残すことができました。全日本学生大会において何度も日本一になり、また、世界連合結成大会（第1回世界大会）の大学の部でも第1位（最優秀賞）になるなど輝かしい成果を収めることができました。また、卒業してからも修行を続けているOB・OGも多く、全国大会において何度も日本一の座につき、内閣総理大臣賞を始め多くの受賞をしており、東北学院大学の名声を全国に轟かせることができました。

最近、少林寺拳法の普及に伴い、大学少林寺拳法部に有段者、経験者の入部希望者が増加しています。しかし、本学少林寺拳法部ではスポーツ推薦での合格率が極めて低いため、有望な拳士が他大学に進学してしまうことが多く、そういう意味で大会等においても大変苦勞していることも事実です。しかし、現役に女子部員が増えたこともあり、元気でやる気のある雰囲気が高まっていることは、大変明るい材料であると同時に、今後の活躍が楽しみでもあります。また、昨年からは監督の若返りを図り、20代の新監督を迎えたことで現役もますます活気づいております。OB会としてもこれまで以上に支援を行い、今後の活躍に期待をしていきたいと思っております。

自転車競技部OB会の歩み

自転車競技部OB会会長 小野目 博 昭
(昭和50年 経商卒)

我が自転車競技部創部の発端は、東北に全国に通じるような学生競技の発展を育成するという目的から、県の自転車競技役員の方々や教育指導者からの御助言をいただき、東北学院大学体育会の緒先輩方々の暖かい御配慮を賜り、前身は、昭和43年に僅か数名の愛好会からの出発でした。

その後、昭和45年に体育会の競技団体への加入が認められ、正式に部としての体制が整いました。

しかし、部としてはこれからという矢先、部活動で公道練習中の部員の列に、居眠り運転の自動車が入り込み、この事故により、部員1名が悲運にも死傷、同僚も巻添えにより怪我を負うという、最悪の結果を招いてしまい、休部せざるおえない状況となり、部存続の危機を迎えた時期もありました。

東北の地に、ようやく灯した火を何とか残したいと部創設時の先生方の御尽力等を熱意に変えて、再スタートを切ったのは、昭和47年からでした。

当時の大学自転車競技界の強豪校は、東京に集中しており、東北地方からも多くの有望な選手がそれらの学校へと流れて行く状況の中、当時は無名に近かった東北学院へ有望な選手を集めることは至難の業にちかく苦慮することもしばしばだった。部とは言っても予算も少なく文字通り基礎からの作り上げだった。

このことから、全国的には無名でも、自転車競技に対する本人の・情熱・遣り通す意志の強さがある者にポイントを絞り、入学と同時に徹底的に鍛えあげ強豪校に追い付け、追い越せを合言葉に銀輪が走りはじめた。

学院大自転車競技部の部則には〔質実剛健・少数精鋭〕がある。これは、部創設時よりの伝統であり、今も脈々と受け継がれているが、部草創期の選手が、その後第一次黄金期を迎えるのにそう時間は掛からなかった。

我が自転車競技部がその後東京の強豪校と肩を並べられるようになったのは、練習環境が良かったこと。

良き指導者に恵まれていたこと。そして強豪校には負
けられないという反骨精神に支えられているからでも
ある。

その後も第二次・第三次の黄金期を迎え、名実とも
に学生自転車界では、強豪の一角を担うまでになり、
この間個人でも幾多の全国大会優勝・準優勝者を輩出
するなど、東北学院の自転車競技部の名声が高いもの
となった。

OB会は、現在百余名を数えるに至っているが、そ
の活動の中心は、現役部員への援助にある。インカレ
等に於ける物心両面の援助や各大会への応援ツアーが
主目的となっている。

最近の活動としては、現役学生からの要望もあって、
自転車運搬用のトラックを購入し、現コーチが運転手
となり、文字通り手弁当で試合会場まで競技用自転車
を運ぶなどしており、少しでも現役選手への負担軽減
になるようにとその活動の輪を広げつつある。



前 佐藤正監督退任にあたり感謝の会
(2007年7月 レオパレスにて)

柔道部創部90年を迎えて

柔道部OB会会長 豊嶋良一
(昭和54年 経経卒)

この度はT GスポーツOB連合会会報の発刊、誠におめでとうございます。

我が柔道部は大正8年に創部し今年90年の節目を迎えるにあたり、先般10月3日に記念式典及び祝賀会を
仙台サンプラザにおいて盛会裏に執り行う事が出来ました。これも一重に大学をはじめ多くの皆様方の長年
に渡る暖かい御協力の賜物と感謝を致しております。又、式典には青山学院大学OBをはじめ高校の監督さ
んなど多くの関係者に出席をして頂き、本当に中身の濃い式典になった事を喜んでおります。

さて、柔道部創部の大正8年(1919)の背景を見てみると、第一次世界大戦終了の後始末で国中が多くの
問題を山積している中、本学では陸上競技部、硬式野球部などと同時期に産声をあげました。その後、第二
次世界大戦の敗戦によるGHQ占領下で武道禁止などの大変な軋轢を乗り越え、現在に至っていると聞いて
おります。そのような道筋の中、柔道部が脈々とこれまでの活躍、活動ができたのは常に陰日向となりご尽
力頂いた各代の部長をはじめとする多くの先生方、先輩方の存在があります。特に私が学生時の部長、当時
大学の学監でありました阿部欣二先生には部訓である『不退転』を頂き、今も柔道部の部旗をはじめ部員の
心のよりどころになっています。他の運動部も同じことと思いますが、90年という年月は生半可な状況で存
続できるものではありません。試合戦績は強い選手を補強すればそれなりに成果が出るものです。しかし伝
統、組織を一旦壊すとその立て直しは至難の事であると言われます。

10年後の2019年、柔道部は創部100年を迎えます。
その間大学も大きく様変わりすることでしょう。その
為にも、このT GスポーツOB連合会が磐石な組織に
なり、東北学院大学隆盛の一翼になる事を望みます。



昭和33年 東北を制す

TGスポーツOB連合会 会報発行に寄せて

水泳部副部長 石田 伸彦
(平成6年 教人卒)

TGスポーツOB連合会・会報第1号の発行、誠にありがとうございます。

我々体育会水泳部は昭和2年の創部以来80年以上の歴史の中で、数多くの選手・指導者を輩出して参りました。特に最近では、日本学生選手権(インカレ)や国民体育大会等での活躍する選手も出始めると同時に、本学を卒業して指導者となったOB達が育てた選手達が全国大会で優勝、あるいは入賞をする活躍も多数あり、水泳界の発展に貢献しております。

今現在では泉キャンパスに立派な50mプールがありますが、それ以前は当時工学部にあったプールを、更にそれ以前は県内の高校や大学、自衛隊のプールを借用して練習しておりました。また昨今は冬場でも変わらずに水中トレーニングをするのが当たり前の時代ですので、現在も現役学生は、年間通してのトレーニングのため泉区にあるセントラルフィットネスクラブ泉のプールを早朝に借用して練習しており、昔も今も「ジブシー」なトレーニング環境には変わりありません。

さて今年これまでの戦績を振り返りますと、6月上旬に行われた「東北地区大学体育大会(旧・東北地区大学総体)」では、男女それぞれが総合優勝。同じく6月下旬に行われた「北部学生選手権」においても、男女それぞれが総合優勝。8月に行われた「対青山学院大学定期戦」においても男女それぞれが勝ち、総合優勝を果たすことができました。また「北部学生選手権」での総合優勝に対しては、本学内でも星宮望学長から男子・女子それぞれが「学長特別表彰」を受けるといふ、栄誉もいただきました。

今後も、オリンピックや世界水泳での日本選手の活躍で、水泳競技に注目が集まりつつある中で、本学水泳部も時代の波に乗れるよう、努力していきたいと思っております。そして「記録」だけにとらわれるのではなく、「体育会」としての豊かな人間形成にもつながっていければと思っております。

最後に東北学院大学TGスポーツOB連合会が、今後ますます発展していくことを望みます。



2009 東北地区大学総体 男女アバック優勝

TGスポーツOB連合会会報発行に寄せて

軟式野球部副部長 福田 克俊
(平成5年 経経卒)

我が軟式野球部は他の伝統のある部とは違い、まだまだ歴史も浅く小さな団体ではありますが、これまで諸先輩達が築き上げてきた伝統はとても大きなものがあります。全日本選手権ではベスト4、東日本大会では過去3度の優勝と東北の雄として頑張ってきました。学内的にはどうしても花形の硬式野球部、準硬式野球部の影には隠れますが、影ながら地道に頑張っております。(やっている部員は影とは思っておりませんが・・・) 球場は仙台市の球場を借りて、週3、4回練習に励んでおり、専用グラウンドが無いハンデに負けないように日々精進しております。スポーツ推薦も年に一人取ればいいほうで、特に秀でた選手はおりませんが、各個人が責任あるプレーを行い、みんなで繋いで勝つ野球を目指しております。高校時代の管理された野球から選手個人が自ら考え行動して、部をまとめていくという伝統を代々受け継いでおります。OB・OGも



各界で活躍しておりOB会全体で250名（平成21年4月現在）に達しております。今後はまだまだ認知度が低い軟式野球ですが、子供から老人まで楽しめる軟式野球をもっともっと多くの人に興味を持ってもらえるように努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお祈りいたします。

「ハンドボールOB会の活動状況」

ハンドボール部OB会会長 仲嶋 一雄
(昭和41年 文経卒)

ハンドボール部は昭和29年に有志により同好会として発足しました。当時はまだまだ食料やユニホーム・練習場もままならぬ時代で、コートはサッカーと同じ広さであり、しかも11人制です。

昭和34年に東北学院大学体育会ハンドボール部に昇格しました。現在の7人制になったのは昭和38年です。それと同時にOB会も立ちあげました。初代の会長は豊田忠夫氏です。東北のハンドボール界をリードし国体にも東北代表として連続9回出場し実業団のチームとも互角の戦いをしました。

現役強化にも物心共々援助し、お互いのチームが宮城県内の決勝で競い合いました。OBは国体の常連チームとしてベストエイトに名を連ね宮城県の国体順位に多大な貢献をして来ました。

近年は大学に入学する学生が東北全県に広がり、県内に就職するOBも少なくなりました。OBチームも若い人が少なくなって強いチームを維持が出来なくなって現在に至っています。

現役との交流は積極的に行っております。年間のスケジュールを見ますと春は総会と新入生歓迎会年末は納会等と一緒にお酒を酌み交しながら、ハンドボールの強化の話や就職へのアドバイスをしています。いつも出席して頂けるOBは同じ顔ぶれになってはいますが、学生にとっては大変有意義な会になっています。

OB会の最大のイベントは12月に行なう、TGジュニアカップです。宮城県下の底辺拡大と強化を目指して開催しております。今年で第6回目になります。ようやくTGジュニアカップでプレーした選手が学院大のハンドボールに入部して来る様になって参りました。素晴らしい事です。

こつこつと努力しながら、いい選手の確保に繋げていくことが、それが強い学院ハンドボール部につながると信じています。

OBの皆さんと交流のツールとしては、会報を年一回発行しております。一年間の現役の戦績やOB各位の出来事など記事にしてお知らせしています。OBの方々は楽しんで読んで頂いています。

また現役への強化の支援も金額は多くはないですが、毎年しております。

強い学院ハンドボールの復活とOB各位の交流を目指して、OB会を運営しております。



創部40周年祝賀会

(平成6年11月20日 於 仙台ホテル)

小藤恭正氏を偲んで

バスケットボール部男子監督 石山 仁
(昭和50年 経経卒)

昭和47年2月、新監督候補の小藤さんと会うため村上（3年）と石山（1年）が塩釜の尾島町を訪ねた。魚金という小料理屋にいる先輩は顔も知らなければどんな人物かも知らないで伺ったのである。

店に入ると板前さんが出迎えてくれ、まず何か食べなさいと料理を出してくれた。時間が経過しても小藤さんは一向に現れず、我々のご馳走になっていた。村上が言葉を発した。

『小藤さんにお会いしたいのですが・・・。』答えはすぐに返ってきた「俺が小藤だけど」と目の前の板前

さんが言ったのである。

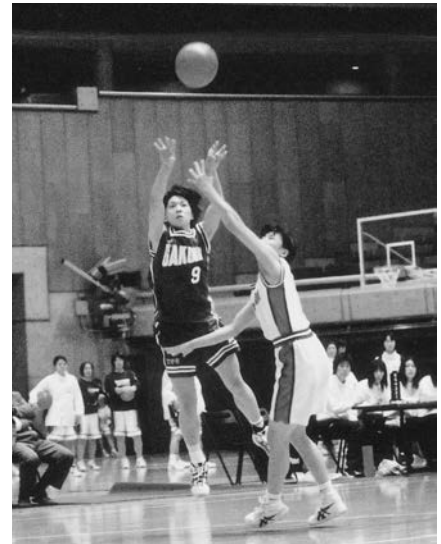
これが小藤さんとバスケットの関わりを持つ重要なポイントである。

当時は指導者というより年の離れは兄貴のような感じで部員と接していた。次第に、バスケットに興味を持ってきた彼は、後に日本を代表するようになって行く人が集った「コンバースクリニック」に参加する。そこで小藤さんは人柄の良さを発揮し多くの人たちと友人関係を作り、それぞれのバスケット理論を吸収して仙台に戻ってきた。小藤さんは根っからの勝負師で遣るからには勝たねばならぬ。バスケットは馬並みに走って何ぼ。ということでチーム名はクレージーホースとなって今に至っている。

バスケット理論を吸収するのに時間はかからなかったスポンジに水が吸い込まれるようにその知識をチームに伝えた。チームは確実に力をつけ「東北に学院あり」と言われるまで成長した。私も卒業後小藤さんとともに長年にわたり学院の成長を見て指導に当たった。

一方で小藤さんは練習以外でも公私に渡り、学生の面倒を良く見てくれた。時にはいたずらっぽいことを考えたり、競争意識を養うため罰ゲームをさせることで気持ちを高揚させるなど多くの工夫で指導していた。チームも全国レベルに近づき始めていた。

大学だけではなく宮城県の多くの指導者に対しても好き嫌いなく接しレベルアップに貢献した。教え子の多くが県内のコーチや監督として小藤バスケットを実践していることを喜んでいた。



学生時代に活躍の相澤優子選手
(現シャンソン化粧品)

今、創部50年を経て・・・

フェンシング部OB・OG会つるぎ会会長 佐藤 彰一
(昭和45年 経経卒)

会員相互の親睦と、現役学生への支援を目的に設立された「つるぎ会」は、会員総数157名を数え、その歴史の重みを感じるまでになってまいりました。

創部50周年の記念祝賀会を平成16年8月15日に、T GスポーツOB連合会からも、関係の皆様にご列席をいただき盛大に開催をいたしました。(創部40周年記念パーティーは、平成6年8月13日に開催)

当時の現役学生に対し、記念の「電気審判器」「部旗」を贈呈し、節目を通過しております。

現在「つるぎ会」では、会員との間には、「会報」を定期的(年1回)に発行し、また、現役学生との間では、「新入生歓迎会」「卒業生送別会」の各コンパや、「青山学院大学定期戦の応援観戦・懇親会」への出席等、交流を続けております。

今年度の現役学生は、3年目3名・2年目4名・1年目3名 計10名と、近年になくまとまりをみせております。

昨年、強豪ひしめく関東リーグに加盟し、同年、競技3種目共2部昇格を果たしました。

頼藤俊夫監督(S49卒)指導の下、新たな環境で技術の向上に努めており、更なる活躍を期待しています。

平成19年8月、第4代会長を拝命し、現在に至っておりますが、近年、特に若い会員(卒業生)の参加(会費納入



創部50周年祝賀会



部旗

率等)が低迷しており、現役学生への「支援」に影響が出始めております。若い会員をいかに取り込んで運営していくかが、緊急の課題と考えております。

今後も「つるぎ会」では、会員と連携を取りながら、現役学生を支援し、また、TGスポーツOB連合会の総会等をとおして、各部との交流にも積極的に参加してまいります。

つるぎ会

役員名簿

会 長	佐 藤 彰 一 (S45卒)
副 会 長	芳 賀 俊 行 (S46卒)
副 会 長	濱 田 弘 之 (S61卒)
会 計	頼 藤 俊 夫 (S49卒)
会計監査	佐 藤 利 雄 (S54卒)
会計監査	佐 藤 寿 行 (S57卒)
事 務 局	工 藤 健 二 (S47卒)

TGスポーツOB連合会会員の皆さまへ

ボート部OB・OG会仙台艇友会会長 **鈴木和雄**
(昭和45年 経経卒)

今年度からTGスポーツOB連合会の会報が発行されることになりましたので、ボート部の創部から現在までの活躍をお知らせしたいと思います。

第一回として創部の頃を平成7年2月18日に行われた「東北学院大学体育会ボート部30周年記念会報」に掲載されていますのでご紹介いたします。

創部の思い出と御礼～皆様の御厚情に感謝して

ボート部監督・仙台艇友会会長 **増田量吉**
(昭和42年 文経卒)

雄島の陰に艇を浮かべて以来30年が昨日のことに思われます。昭和39年4月、高校時代のラグビー仲間を中心に海や川の自然に恵まれた仙台の地にふさわしいスポーツ、ボートを始めることになりました。

素人の集まりで艇も活動費も何もない学生が当然のことながら学業と練習とその上お金を作る、こんなことを続けることが思った以上に大変で、同期の仲間がだんだん離れていくことも仕方がなかったと思います。

発足当時、大学の学監で体育会会長・柔道部長の阿部欣二先生の学監室を訪ね。このスポーツに学生生活の全てを賭けることを話し御協力をお願いしたところ「大変なことをしようとしていますね、私は部長になれませんが顧問でどうでしょう。部長には推薦したい人がおります。任せてくれますか?」と言われ“ヤッター”ボート部は強くなれる、大きくなれる、そうしなければと大変勇気づけられました。

大学より正式に承認されるまでの間、体力作りと艇の購入の準備に入りました。半年後の東京オリンピック開催を間近にした10月8日、顧問・阿部欣二先生、初代部長・平田隆一先生で、東北学院大学体育会同好会として正式に承認され、わずかな部費が出る一つの部として認められたのです。既存の他部との友好のため、柔道部主務の庄司純先輩、空手道部副主将の斎藤理人先輩には大変力になっていただきました。

学外においては、当時、東北高校漕艇部監督の幡紀典先生、東北大漕艇部OB、小笠原清高先生始め大勢の皆さまからの御指導をいただき……。

後半はいよいよ佳境に入ります、平成22年度のOB会会報に続きます。

我がOB会の活動状況

ヨット部OB会会長 佐藤 出
(昭和39年 文経卒)

この度TGスポーツOB連合会の更なる結束と活性化を図るための「会報」の発行、おめでとうございます。

ヨット部は昭和26年同好会としてスタートし、昭和28年部に昇格、今年で創部56年になります。OB会の名称は東北学院大学体育会ヨット部OB会と称し、会員相互の親睦と友情を深め、互いに啓発し、本会の発展に寄与することを目的に、現在会員244名（内、物故者17名）が在籍しております。

最近のOB会活動を紹介しますと、夏に実施されるOBレースがあります。若い20代、30代のOBの企画・運営で、現役学生が活動している閑上ヨットハーバーに会員とその家族が集まり、年齢が親子ほど離れているOB同士がペアとなつてのレースは、和気あいあいとしたなかにも、青春の血が沸くのでしょうか、一生懸命になって艇を走らせている姿は、一段とこの大会を盛り上げ、年々参加するOBが増えております。ハーバーではバーベキュー、湾内では小さなお子さん向けのOP級ディングーに親子で乗って楽しく過ごす一日です。また、年2回のゴルフコンペ（河童会）も、今年の春の大会で65回を重ねてきた歴史ある大会です。勿論インカレをはじめ現役学生が活躍する競技大会には、いつも数多くのOBが駆けつけております。

海洋スポーツヨットは危険がつきまとうスポーツです。常に身の安全を第一として練習に励んでおります。幸い学校から救助艇をはじめレース艇の建造に大変なご理解とご支援をいただいております。感謝に耐えません。しかし会員が一番心配していることは、ここ数年部員が激減したことです。現在部員は4年生1名、1年生3名の計4名（女子）です。OB会としても新入部員獲得には、物心両面にわたって最大の支援をしているところです。

そんななか、今年の春の叙勲で、OB会員の高橋順一氏が永年のセーリング競技の普及と海洋スポーツの発展に貢献されたご功績により、「旭日双光章」の榮譽に浴されました。ご本人はもとより、OB会にとりましても誠に名誉なことと存じます。高橋順一氏は昭和34年卒業、ヨット部OB会の5期生で、昭和39年の東京オリンピック競技大会ではヨット競技役員をはじめ宮城県ヨット連盟理事長、宮城県国体ヨット競技選手団総監督、(財)日本セーリング連盟常務理事、国民体育大会プロテスト委員会委員長、東北セーリング連盟会長等々永年にわたってヨット界発展に貢献されました。来る9月6日(日)には、(財)日本セーリング連盟(会長、山崎達光氏)、宮城県セーリング連盟(会長、中野正志氏)、東北学院大学体育会ヨット部OB会の3団体が発起人となり、「高橋順一氏の叙勲を祝う会」をホテルメトロポリタン仙台で盛大に開催する予定です。当日は、TGスポーツOB連合会会長本間良一様からご祝辞をいただくことになっております。

会員には各地域・各立場で、数多くのOBがヨット界の普及と発展に活躍しておりますことは、OB会はもとより現役学生にとりましても心強く、誇りでもあります。これからのOB会は前途洋々たるものがありますが、現役部員が増えることを切に切に願っているところです。今後は、OB会の運営も若い世代が中心となり、一層の発展を図っていくものと思っております。

これからも、学校をはじめTGスポーツOB連合会のご理解とご指導をよろしくお願いいたします。

「私たちOB・OG会のこれまで」

ライフル射撃部OB・OG会会長 三文字 一郎
(昭和46年 経商卒)

私たちライフル射撃部の誕生は昭和37年10月14日、宮城県ライフル射撃協会理事長近藤氏(当時)が本学院教務課佐藤秀臣氏(当時)の紹介により本学院学生課関口氏と面談し、本学にライフル射撃部を設立するにつき協力を要請した事から始まる。翌38年には部員の勧誘等あり、記録では4名の学生が入部とあります。

その後部長に今は亡き山本(敬)英語担当教授が部長就任を快諾され、活動が本格的に始まることとなります。その第一歩として青山学院大学とのオープン定期戦を行ったのが同年5月8日でした。しかし定期戦とはいえ、殆ど初心者故に実質的には合同練習のような形で射撃の指導を乞うものでありましたが、それで

も翌6月28日には同好会として正式に認められ、昭和40年10月1日にはこれまでの部員の活動が認められ部昇格を果たしました。その後、山本先生のご逝去に伴い昭和47年4月から経済学部森健一先生、平成11年4月には法学部高木龍一郎先生、そして平成21年4月より経営学部井上普就先生の指導を仰いでおります。その間、世界選手権最終予選或いはアジア大会出場者を始め、国体及び全日本学生選手権にも幾度となく優勝者を輩出してまいりました。そのような中で昭和54年4月ライフル射撃OB会が発足いたしました。また昭和60年には名称も「OB・OG会」に改め現在に至っております。会員数も200名を数えるまでにはなりましたが昨今県外就職を始め特に出身県に戻る卒業生も多くOB・OG会活動も近年は減少傾向にあります。しかしながら会として現役学生への援助や現役学生との対抗戦を行うなど互いの親睦を深める交流には力を入れておりまして、現役の各種大会においても卒業生が応援に駆けつける姿を垣間見ることが出来ます。また合宿等においても近隣の卒業生が激励に来るなど、部員達にとっては大きな励みになるのは勿論の事、卒業生にとっても普段仕事に追われる自分たちを振り返る良い機会になっています。

私たちはOB・OG会発足当時から先輩・後輩の垣根無く誰もが気軽に参加できる会作りを進めていることで現在においても学生との各種交流は、当会々員同士の親睦と並び、会運営の大きな柱であると自負するところです。これからも部員たちには文武両道を旨とし更なる活躍を願い、最後になりましたが東北学院大学TGスポーツOB連合会の益々の発展をご祈念申し上げまして寄稿とさせていただきます。

「TGラグークラブ(ラグビー部OB会)について」

TGラグークラブ会長 工藤哲男

(昭和40年 文経卒)

今年度、我が東北学院大学ラグビー部OB会にて高橋良夫前会長及び故 佐藤二郎副会長が勇退され、新たに小生が会長を任命されました。今後共、伝統のある部をさらなる前進する様務めていく所存であります。

さて、我がラグビー部については、昭和5年設立以来80年の歴史と伝統に守られ、東北・北海道の雄として現在に至っております。

今年度も、東北地区大学ラグビーリーグ5連勝中で、春の青山学院大学との定期戦においても、6年ぶりに勝利し今年こそ東北・北海道の代表戦を突破し全国大学選手権出場を旨として頑張っています。OB会についても、より強力にOBの結束と現役学生への支援を最大の目標として活動中であり、スタッフ一同頑張って東北学院大学の名誉と伝統を保持することを願っている次第です。

東北学院大学ラグビー部OB会スタッフ

会 長	工 藤 哲 男 (昭和40年卒)
副 会 長	志小田 正 一 (昭和46年卒)
副 会 長	古 澤 昭 二 (昭和50年卒)
副 会 長	菊 地 祐 一 (昭和53年卒)
幹 事 長	高 橋 俊 哉 (平成元年卒)
副幹事長	末 永 隆 逸 (平成2年卒)
事務局長	山 田 純 (平成6年卒)
監 事	大 塚 洋 一 (昭和51年卒)
監 事	菅 原 好 信 (平成5年卒)

会報発刊おめでとうございます。

陸上競技部OB会会長 鈴木 浩
(昭和37年 文経卒)

陸上競技部及びOB会概要

陸上競技部は1918年（大正7年）3名の部員により、東北学院専門部創設と同時に、我が校としては初めての部として創部されました。

創部後戦前においても先輩方々の活躍はあったようですが（1939年卒芳賀中氏保存資料）、部としての詳細な記録は1957年に黒澤直次郎先生が第4代競技部部長（第2代監督兼任）に就任されてから資料として残っております。

黒澤先生競技部部長就任の翌年の1958年には東北インカレに男子総合優勝、以後14連勝の偉業を達成しております。

翌1959年には女子が4名入部初の女子部の誕生がありました。

1960年には黒澤先生からのアドバイスを受けOB会前身の陸上競技部後援会が設立され、初代会長に1930年卒の和泉芳郎氏が就任。

1968年に東北インカレで初の女子トラック優勝。

1979年陸上競技部後援会名称を陸上競技部OB会と改称。1939年卒岩佐正一氏会長就任。

1980年泉校地に第3種公認競技場完成。

2000年には我が陸上競技部の部長として43年間、我らの指導をなされた黒澤直次郎先生が退官、盛大に退官祝賀会が開催されました。

2003年に創部85周年の祝賀会が催され、その記念事業として294ページに亘る記念誌を発刊（大学各キャンパス図書館に蔵書）。

2008年11月には創部90周年祝賀会を開催、記念事業としてOB会ホームページを開設、合わせて同年日本選手権走高跳び3位・日本インカレ2位の栄冠に輝いた佐々木美歩さんを特別表彰。

2009年8月22日我らが敬愛する黒澤直次郎先生がご逝去され8月26日葬儀・告別式が催されました。

この会報創刊号に黒澤先生の訃報を記すとは思ってもありませんでした。

黒澤直次郎先生のご冥福をお祈り申し上げます。



黒澤先生還暦お祝い

「会報発行にあたって」

レスリング部OB会会長 菅野 紀夫
(昭和38年 文経卒)

TGスポーツOB連合会「会報」発行にあたり、一言お祝い方ご挨拶を申し上げます。思えば昭和46年（1971年）の春、全国的な大学紛争が本大学にも波及し、学内が非常事態宣言のもと、教職員の支援のため、母校を思う体育会出身の同窓生有志が学内警備体制を組織したことから、翌年、昭和47年（1972年）に献身奉仕した有志の会から自然発議のもとに「TG春秋会」という名称で懇親会として発足したのが、TGスポーツOB連合会の始まりであったと記憶しております。当時は、我が部のOBも我先にと母校に馳せ参じ、昼夜を問わず、母校愛に燃え、警備活動に従事したことが思い出されます。発足当初の熱い思いと堅い団結力も、年々薄らいでいるような焦燥の念が禁じ得ません。会報発行に尽力された企画広報委員会の皆様の尽力と労苦に敬意を表するとともに、是非とも会報発行とともに、今後とも各部の結束が高まりますよう期待しております。

また、在学中の各部現役諸君に対しても一言お願いがございます。在学中、日々の激しく苦しいトレーニ

ングを通して不捷不屈の精神を養い、健全にして頑健な体づくりに精進することは、偏に将来の社会人として貢献できる人材への成長を促し、卒業後の豊かな人生を歩むためにも必要な修練の一つであります。皆さんの努力が、その姿が我々体育会出身者にとって何よりの励みにもなります。どうか各部OB、またOB会の意をお汲みとり下さいまして、日々精進を重ね、妥協することなく頑張り続けて良き結果につなげ、いやが上にも東北学院大学体育会の名声を輝かせていただきたいと節に祈る次第です。

さて、我が東北学院大学体育会レスリング部もおかげさまで創部60周年を迎える事になりました。顧みますと、部の存続も危ぶまれた苦難の時代をのりこえ、今日に至る歩みは決して平坦なものではなかったのです。創部以来、学校側、諸先輩方の激励をいただき或いは関係各位、体育会各部の積極的なご協力と温かいご指導、ご支援のおかげでありますこと、衷心より感謝申し上げます。

現在、私どもOB会は60周年の節目を迎えた事業の一環として、OB会の新たなる結末と現役諸君との絆の更なる強化を目的に、これまでの星霜をかさね、レスリング部の歴史を今一度振りかえり、創部時の苦難からの足跡をたどる各種記念事業を企画しております。

事業の詳細が確定次第、関係の皆様にご案内させていただきますので、その節もご協力のほど、よろしくお願いいたします。

末筆ではございますが、TGスポーツOB連合会ならびに各部現役各位の今後ますますの活躍を祈念しご挨拶とさせていただきます。

平成22年度（2010）東北学院大学入学試験

○各入学試験&受験日

*スポーツ推薦入試

平成21年11月12日(木)

*AO（アドミッションオフィス）入試

A日程 平成21年11月12日(木)

B日程 平成21年11月18日(金)

*入試センター試験

平成22年1月16日(土)、17日(日)

*一般入試

前期日程 平成22年2月1日(月)～3日(水)

後期日程 平成22年3月5日(金)

○学部学科（学科定員/スポーツ推薦枠）

*文学部	英文学科	(昼215/4、夜35/1)
	歴史学科	(150/4)
	キリスト教学科	(10/1)（※H23～総合人文学科に）
*経済学部	経済学科	(400/32)
	共生社会経済学科	(170/13)
*経営学部	経営学科	(310/20)
*法学部	法律学科	(325/20)
*教養学部	人間科学科	(100/7)
	言語文化学科	(100/6)
	情報科学学科	(100/6)
	地域構想学科	(100/7)
*工学部	機械知能工学科	(120/2)
	電気情報工学科	(120/2)
	電子工学科	(100/2)
	環境建設工学科	(100/2)

合計⇒15学科 (2,455名/129名)

(詳細は東北学院大学HPをご覧ください。)

各OB会の活動状況

アメリカンフットボール部

- ・OB戦（4月）
- ・Kayaks祭（5月）
OB会総会、部員、OB・OG、父兄、家族参加の交流会、スクリーンイメージ、タッチフットボール等ゲーム、懇親会
- ・夏合宿（8月）
- ・リーグ戦応援（9月～11月）

空手道部

- ・定例総会（10～11月）
- ・ゴルフ大会（総会当日、部創設者の富岡杯として開催）

剣道部

- ・年総会
- ・OB会稽古会（年10数回）

硬式野球部

- ・定例総会
- ・親睦納涼ビアパーティ
- ・親睦ゴルフ大会

ゴルフ部

- ・OB会総会

サッカー部

- ・OB会総会&懇親会
- ・対青山学院大学OBとの交流戦
サッカー試合&ゴルフ大会

山岳部

- ・年次定例総会、役員会他運営会議
- ・会報発行（年1回）
- ・例会登山（年4回）
- ・TGヒュッテ「栄光」記念祭（10月第1週）
- ・TGヒュッテの維持管理（小メンテナンス）
- ・新入部員の勧誘活動、現役部員への応援

少林寺拳法部

- ・総会
- ・ゴルフ大会

自転車競技部

- ・OB会総会
- ・OB会役員会
- ・学生への支援活動（今年度は競技自転車の運搬用トラックを購入）

柔道部

- ・定例総会（6月）
- ・新入生歓迎会
- ・ゴルフ大会
- ・OB会機関紙「南六会報」の発行（10月）
- ・柔道部長杯争奪高校柔道大会（TG杯）

準硬式野球部

- ・OB会総会
- ・OB会親睦会（ナイター野球他）

スキー部

- ・定例総会
- ・新入生歓迎懇親会

卓球部

- ・定例総会（7月）
- ・菊田杯卓球大会（OB会主催・3月）
- ・現役部員との交流試合（11月）

軟式野球部

- ・OB総会（11月）

バスケットボール部

- ・定例総会
- ・納会（年度末）

バドミントン部

- ・OB会総会

ハンドボール部

- ・総会
- ・新入生歓迎会
- ・機関紙「練磨」の発行
- ・T G ジュニアカップ (12月)
- ・納会
- ・ゴルフ大会

フェンシング部

- ・会報の発行 (年1回)
- ・新入生歓迎会、卒業生送別会
- ・対青山学院大学定期戦の学生支援、懇親会参加

ボート部

- ・定例総会 (2月)
- ・艇庫敷地内草刈奉仕 (5～8月)

ヨット部

- ・OB幹事会 (年3～5回)
- ・OB総会 (5月)
- ・OBレース (7月)
- ・ゴルフコンペ (春、秋の2回)

ラグビー部

- ・T G ラガークラブ会長杯ゴルフコンペ (9月)
- ・幹事会
- ・定例総会 (9月)

陸上競技部

- ・定例総会 (6月)、懇親会
- ・新年会 (2月)、新入OB会員 (招待) 紹介
- ・合宿差し入れ (夏・冬)

レスリング部

- ・幹事会主催ビアパーティ
- ・OB会総会

ワンダーフォーゲル部

- ・総会 (毎年1月2日開催)
- ・ワンデリングの実施 (春、秋は日帰り、夏は一泊)

応援団

- ・定例総会
- ・幹事会
- ・親睦ゴルフコンペ (春・秋)
- ・現役部員とOB会との懇親会

活躍のOB&OG

アメリカンフットボール部

- ・田中 康嗣 (昭60卒)
日産パルサーズ所属実業団リーグ優勝
- ・安保 昌敏 (平02卒)
レナウンローバーズ所属 Xリーグ優勝
オールジャパン選出
- ・須知 康信 (平02卒)
レナウンローバーズ所属 Xリーグ優勝
- ・他 Xリーグにて活動選手多数

空手道部

- ・佐藤 正城 (昭33卒)
第4回協会全国大会組手優勝
- ・斉藤 滋 (昭33卒)
第2・3回協会全国大会形3位

- ・森 俊博 (昭48卒)
IAKF世界大会組手優勝 (ドイツ)
第4回全流派全国大会組手優勝
第21・23回協会全国大会組手優勝
- ・伊藤 裕美 (平01卒)
第31回協会全国大会組手3位
- ・田口 友子 (平03卒)
第29回協会全国大会組手2位

剣道部

- ・曾根 孝悦
全日本剣道選手権大会出場
- ・佐藤 啓
全日本剣道選手権大会出場 (連盟派遣でフランス剣道の普及、指導)

- ・武中 則夫
全日本剣道選手権大会出場（最年少出場記録）
- ・川木 一也
全日本剣道選手権大会出場（ベスト16）
- ・高坂 雄介
全日本剣道選手権大会出場（ベスト8）
- ・遠藤 稔正
全日本剣道選手権大会出場（ベスト16）
- ・高橋 静
JICA派遣でポーランド、ドミニカにて剣道普及活動。
- ・五十嵐祐子
全日本女子剣道選手権大会出場
- ・佐藤 梢
全日本女子剣道選手権大会出場
- ・佐藤 佳世
全日本女子剣道選手権大会出場

硬式野球部

- ・山田 勉（平01卒）
前NTT東北投手
- ・相澤 滋（平07卒）
前七十七銀行投手
- ・仁部 智（平13卒）
前広島東洋カープ投手
- ・星 孝典（平18卒）
読売ジャイアンツ捕手
- ・岸 孝之（平19卒）
埼玉西武ライオンズ投手



学生時代の岸孝之選手（埼玉西武ライオンズ）



2008年日本シリーズMVP受賞祝賀横断幕（泉キャンパス）

ゴルフ部

- ・石田 道夫
日本学生5位
- ・水野 泰子
日本女子学生5位
- ・大友 勝博
関東学生3位
- ・大友 富雄
日本アマ2位、1986アジア大会団体銀メダル
- ・芦沢 緑
日本女子学生10位
- ・高橋 克成
関東学生ベスト4

サッカー部

- ・鹿井光雄（昭22卒）
ニュデリー・アジア大会日本代表
- ・本間良一（昭33卒）
日本サッカーリーグ三菱重工選手
- ・佐藤 功（昭36卒）
日本サッカーリーグ三菱重工選手
- ・山田隆志（昭44卒）
日本サッカーリーグ三菱重工選手
- ・佐藤 茂（昭46卒）
日本サッカーリーグ三菱重工選手
全日本大学選抜としてヨーロッパ遠征
- ・田端秀規（平05卒）
J1リーグ・ジュビロ磐田選手

少林寺拳法部

- ・片山 正夫
1970年全国大会最優秀賞（第1位）

- ・阿部二三男
1991年全国大会壮年の部最優秀賞（第1位）
- ・門脇 邦知
1974年世界連合結成大会（世界大会）最優秀賞（第1位）
- ・郷内 俊明
1974年世界連合結成大会（世界大会）最優秀賞（第1位）
- ・島田新一郎
1974年世界連合結成大会（世界大会）最優秀賞（第1位）
- ・大槻 善則
1980・1981年全国大会最優秀賞（第1位）
- ・高橋美也子
1985年国際親善大会女子の部最優秀賞（第1位）

自転車競技部

- ・楯石 光弘
国民体育大会ロード優勝
- ・荒井 和弘
インカレ種目別優勝、アジア大会出場
- ・伊里山 豊
インカレ種目別優勝
- ・坂本 勉
インカレ種目別優勝
- ・斎藤 浩
インカレ種目別優勝、アジア大会出場
- ・泉 雅樹
インカレ種目別優勝
- ・大野 直志
インカレ種目別優勝、大学総合2位
- ・沼田 雄一
インカレ種目別優勝、ロード2連覇
- ・佐々木健二
全日本アマチュア選手権種目別優勝
- ・八森 秀明
インカレ種目別優勝
- ・菊地 潤一
インカレ種目別優勝
- ・竹内 智彦
全日本スプリント優勝
- ・桜井 正孝

インカレ種目別優勝、国民体育大会種目別優勝

柔道部

- ・高橋富士男（昭45卒）
全日本柔道選手権大会出場（2回）
東北・北海道柔道対抗大会個人優勝（2回）
2008年世界マスターズ大会優勝（ベルギー）
- ・佐々木卓郎（昭48卒）
全日本柔道選手権大会出場
- ・田村 知之（平05卒）
全日本柔道選手権大会出場
- ・山本 孝章（昭58卒）
全日本学生体重別選手権-66kg級2位
- ・早坂 隼人（平01卒）
全日本学生体重別選手権-86kg級3位
- ・三浦 光司（平04卒）
東北・北海道柔道対抗大会個人優勝
- ・安達 元貴（平11卒）
アメリカ国際ジュニア大会出場
- ・田畑 大地（平20卒）
2009環太平洋シニア選手権大会-66kg級3位（台北）

準硬式野球部

- ・八島 信男（昭51卒）
昭和48年全日本選抜韓国遠征
- ・野村 康一（昭55卒）
昭和54年全日本選抜ブラジル遠征
- ・須藤 知樹（昭56卒）
昭和55年全日本選抜フィリピン遠征
- ・高橋 紳（昭59卒）
昭和58年全日本選抜ブラジル遠征
- ・遠藤 英信（昭59卒）
昭和58年全日本選抜ブラジル遠征
- ・斉藤 貴昭（平01卒）
昭和63年全日本選抜ブラジル遠征
- ・山本 勝弘（平02卒）
昭和63年全日本選抜ブラジル遠征
- ・山口 力（平08卒）
平成07年全日本選抜ブラジル遠征
- ・永田 明仁（平18卒）

平成17年全日本選抜中国遠征

水泳部

- ・松戸 思奈
バルセロナオリンピック日本代表

スキー部

- ・服部 昭彦 (昭46卒)
札幌オリンピックプレ大会出場
- ・上野 弘 (昭49卒)
札幌オリンピックプレ大会出場
- ・関根 良人 (平10卒)
全日本チャンピオン大会4位

卓球部

- ・西飯 幸子 (旧姓川守田、昭46卒)
世界選手権大会女子ダブルス3位
- ・山内 正範 (昭44卒)・新野 敬司 (昭45卒) 組
全日本学生選手権大会男子ダブルス優勝
- ・川内 正範 (昭44卒)・山内瑠美 (旧姓小浜・昭44卒) 組
全日本選手権大会混合ダブルス3位

軟式野球部

- ・星 恭平
東日本大会優勝・MVP、アメリカ遠征派遣選手

バスケットボール部

- ・稲川 龍一
三菱電機選手として活躍後、指導者としてJBL優勝。全日本コーチ
- ・相澤 優子
全日本チームの主将。全日本選手権優勝。ベスト5、シャンソン所属
- ・千葉洋一郎
三菱電機チームで活躍
- ・高橋 憲一
プロバスケットbjリーグ仙台89ERSの主将として活躍中
- ・松田 大地
プロバスケットbjリーグ仙台89ERSで活躍中

- ・加藤 真
プロバスケットbjリーグ富山グラウジーズで活躍中

ハンドボール部

- ・佐々木信男 (昭53卒)
ロスアンゼルスオリンピックに出場。本田技研の主将のあと監督。
- ・千葉 史信 (昭52卒)
第7回世界学生ハンドボール大会に出場
- ・弓場 義一 (昭56卒)
全日本学生選抜選手。ニューカレドニア遠征にて国際試合出場。

バドミントン部

- ・山並 正人 (昭46卒)
宮城県代表として国民体育大会10回出場

フェンシング部

- ・団体での実績
昭和60年～全日本学生選手権大会エペ優勝
昭和60年～全日本選手権大会エペベスト8

ヨット部

- ・小野寺政弘 (35期)、鈴木 和昌 (38期)
全日本大会準優勝
- ・庄司 忠志 (41期)、熊谷 俊彦 (42期)
全日本スナイプ級優勝
- ・熊谷 俊彦 (42期)、鈴木 勝彦 (42期)
日米親善大会日本代表
- ・尾形 依子 (42期)、藤井 修子 (42期)
全日本女子470級優勝
- ・鈴木 智 (43期)、後藤 慶太 (44期)
日米親善大会スナイプ級2位
- ・後藤 慶太 (44期)、今野 洋志 (44期)
日米親善大会日本代表
- ・及川 有紀 (46期)、五十嵐直美 (46期)
全日本女子スナイプ級2位

ライフル射撃部

- ・菅野 勝夫
1965年 世界選手権大会最終予選会出場

- ・佐々木俊彦
1969年 全日本学生選手権大会A R 優勝
- ・山内みゆき (旧姓武田)
1977、1982年アジア大会出場
- ・斎藤 光
1983年 アジア大会出場
- ・松野寿美恵
1990年 国民体育大会A R 優勝 (日本記録)
- ・渡辺 美穂
1991年 全日本学生選手権大会S B 優勝
- ・高野 千穂
1999年 全日本女子学生選手権大会A R 優勝
- ・遊佐真奈美
2002年 全日本女子学生選手権大会A R 優勝
- ・江尻 知一
2001年 宮城国体監督、天皇杯3位
- ・栗野 眞
2002年 高知国体監督、天皇杯4位
2005年 岡山国体監督、皇后杯準優勝
2006年 兵庫国体監督、皇后杯優勝

ラグビー部

- ・加藤 祐太
トップイーストリーグ・セコム所属
- ・高橋 信孝
トップイーストリーグ・NTTコミュニケーションズ所属

陸上競技部

- ・氏家 文男 (昭08卒)
卒業後、日満華対抗陸上競技大会満州国代表
- ・相沢 健 (昭45卒)
1969国民体育大会800m入賞
- ・加藤 宗英 (昭51卒)
日本インカレ男子800m入賞
- ・林 香里 (平01卒)
日本インカレ女子100m入賞
- ・渡部富美子 (平03卒)
日本インカレ女子走高跳入賞
- ・諏江加奈子 (平07年)
日本インカレ女子走幅跳入賞
卒業後、日本選手権女子走幅跳優勝

- ・花沢 元 (平12卒)
日本インカレ男子110H入賞
卒業後、2000年アジア選手権大会日本代表
- ・田尾 英太 (平08卒)
日本インカレ男子走高跳入賞
- ・吉田 絵美 (平15卒)
日本学生種目別選手権大会100mH入賞
- ・佐々木美歩 (平21卒)
2007日本インカレ女子走高跳3位
2008日本選手権女子走幅跳3位
2008日本インカレ女子走幅跳2位

レスリング部

- ・加藤 一之 (昭42卒)
全米選手権大会出
- ・石崎 孝二 (昭44卒)
メキシコオリンピック予選最終選考会選出
- ・小埜寺敏文 (昭44卒)
メキシコオリンピック予選最終選考会選出
- ・赤間 勝 (昭46卒)
全日本学生選手権大会フリー74kg級3位
- ・佐藤 範三 (旧姓八木・昭47卒)
全日本学生選手権大会グレコ57kg級3位
- ・大関 主税 (昭46卒)
岩手国体フリースタイル100kg級2位
- ・伊東 憲 (昭48卒)
全日本学生選手権大会グレコ74kg級3位
- ・木村 信之 (旧姓庄司・昭49卒)
全日本学生選手権大会フリー52kg級3位

卒業生の主な進路先（過去3年以内）

アメリカンフットボール部

警察官、消防士、銀行員、建設関係など

空手道部

宮城県警、JTグループ山形、七十七銀行、岩手銀行、総合警備保障など

剣道部

宮城県警、岩手県警、刑務官、地方公務員、教員、一般企業など

硬式野球部

JR東日本東北、七十七銀行、山形きらやか銀行、杜の都信用金庫など

ゴルフ部

仙都魚類、二木ゴルフ、ユーメディア、ダンロップスポーツなど

サッカー部

JFLソニー仙台FC、J1リーグ・ジェフユナイテッド市原など

山岳部

宮城県警、自衛隊、教員、自営業、一般企業など

少林寺拳法部

仙台高等検察庁など

自転車競技部

競輪選手、民間企業など

柔道部

宮城県警、静岡県警、千葉県教員、日本通運、センコー、総合警備保障など

準硬式野球部

宮城第一信用金庫、宮城県信用保証協会、三越、仙台銀行など

水泳部

トップツアー、宮城県教員、ジャパンスイミングスクール、クレディセゾン、青森銀行、七十七クレジット、スズキ自動車販売、ヨドバシカメラなど

スキー部

ニューワークス、ノースダイヤル、自営業など

卓球部

リンナイ、サカイ引越センター、トヨタカローラ、スズキ自動車販売など

軟式野球部

宮城トヨタ、トヨタカローラ、ネットトヨタ、仙台赤十字病院、日本政策金融公庫、カメイ、地方公務員、JR東日本、東北銀行、仙台商工会議所など

バスケットボール部

仙台銀行、岩手銀行、みちのく銀行、青森銀行、日立電線など

ハンドボール部

JR東日本、JT B、大崎地区広域消防署など

バトミントン部

七十七銀行、大日本印刷、ヤマト運輸など

ボート部

流通、運輸、物流企業など

ヨット部

NTTドコモなど

ライフル射撃部

日本生命、住友生命、宮城県警、総合警備保障など

ラグビー部

山形銀行、きんでん、大塚刷毛、セコム、東京エレクトロン、北日本銀行、東北ミサワホーム、綜

合警備保障など

レスリング部

東北銀行、コジマ電気、宮城県警、アイケイコーポレーションなど

ワンダーフォーゲル部

岩手スバル、トレックなど

応援団

学校法人聖和学園、J R 東日本など

各界で活躍のOB&OG

剣道部

氏家良典・ウジエスーパー社長、鎌滝敬司・ユアテック専務取締役

硬式野球部

三井精一・仙台銀行頭取

ゴルフ部

小田桐和久・仙台放送取締役、野窪雄治・ブリジストンスポーツ、橋本直行・杜の都ゴルフ倶楽部総支配人

サッカー部

庄子普・仙台市市議会議員、本間良一・Jリーグ・キャリアサポートセンター主事、永野勝昭・落合工業代表取締役社長、松谷一夫・松や代表取締役社長、加藤邦夫・東洋刃物専務取締役、庄子春男・J1リーグ川崎フロンターレ強化部長、武田均・仙台市役所東京事務所長、田端秀規・JFLソニー仙台FC監督、花瀨修平・JFLソニー仙台FC、村田純平・JFLソニー仙台FC、門間匡史・JFLソニー仙台FC、奥山康裕・J1リーグジェフユナイテッド市原の各選手

山岳部

板橋元一・前宮城県山岳連盟副会長、江馬成夫・前TGSスポーツOB連合会長、寺島公也・前宮城県山岳連盟、相沢岩男・宮城県山岳連盟常任理事

自転車競技部

競輪選手として全国で10数名が活躍中。また、診療院や神社宮司、銀行員、公務員など多方面で活躍。

水泳部

佐々木賢二・日大山形高監督、吉岡靖泰・東北高校監督、富樫裕・アテネ銅メダリスト森田智巳を指導

柔道部

今野隆吉・元宮城県議会副議長、磯田光治・J R グループ旅館ホテル連合会長、洞口直・元宮城県柔道整復師会長、柴田仁市郎・元宮城県柔道整復師会長、高橋富士男・宮城県大学柔道連盟会長、豊嶋良一・宮城県柔道整復師会長、立谷一郎・相馬商工会議所副会頭

スキー部

鈴木隆雄・東武鉄道専務取締役、只野直孝・TAKパラグライディングスクール校長、宮城夢大使、峯岸良造・一条工務店宮城代表取締役、中野信朗・全日本学生スキー連盟アルペン副部長

バスケットボール部

相澤優子・全日本選抜チーム主将、宮本美希・WJBL東京海上日動チーム監督

ハンドボール部

高橋長緯・前宮城県議会議員、千田文彦・東北ハンドボール連盟会長、仲嶋一雄・宮城県ハンドボール連盟会長、東北社会人ハンドボール連盟副会長

バドミントン部

鈴木勇治・仙台市市議会議員

ヨット部

高橋順一・ヨット界発展により旭日双光賞受賞、
伊藤嘉宣・塩釜女子高監督

ライフル射撃部

三文字一郎・三文字屋代表取締役社長、勝又薫・
岩手県警警視、西東真・アイリスファインプロダ
クト北海道東北営業部長

ラグビー部

工藤哲男・日本ラグビー協会大学委員会委員、東北
地区ラグビー連盟会長、菊地祐一・東北地区大学ラ

グビー連盟理事長、宮城県ラグビー協会副理事長

レスリング部

菅野紀夫・菅野産業社長、東北レスリング協会会
長、宮城県レスリング協会会長、坂井道郎・マル
ハニチロ代表取締役、伊藤憲・元宮城県議会議員

ワンダーフォーゲル部

今野敦之・ユーメディア社長、鈴木繁・鈴憲味噌
醤油醸造代表取締役、仙台市市議会議員、河村光
保・カメイ専務取締役、藤井治夫・東北プリント
社長

現役部員の活動状況

アメリカンフットボール部

- ・数年前に部員不足で2部降格となったが、菊地
弘部長、曾根監督、コーチ4名、プレーヤー32
名、マネージャー7名で2部優勝、1部昇格を
期して活動中。
- ・近い将来は東北初の甲子園ボール出場を目指す。

空手道部

- ・社団法人空手協会第42回宮城県空手道選手権大
会男子団体組手優勝
- ・内閣総理大臣杯全国空手道選手権大会大学団体
ベスト8
- ・堀込 善樹
第8回東北学生個人選手権大会男子形優勝
- ・丹野雄次郎
第8回東北学生個人選手権大会男子組手優勝
- ・堀込 善樹
平成21年度東北地区大学総体男子形優勝
- ・鈴木 啓也
平成21年度東北地区大学総体男子組手優勝

剣道部

- ・平成11・12年全日本学生剣道大会ベスト4
- ・東北学生大会優勝回数最多

硬式野球部

- ・2007年仙台六大学野球秋季リーグ戦2位
- ・2008年仙台六大学野球秋季リーグ戦3位
- ・2009年東北地区大学体育大会硬式野球競技2位
- ・阿部 博文
2009年春季リーグ戦敢闘賞（2季連続）3回
目、ハワイ国際大会出場
- ・瀬川 喬介
2009年春季リーグ戦最優秀新人賞、ハワイ国
際大会出場

ゴルフ部

- ・2009年関東学生男子春季Bブロックリーグ戦5位
- ・2009年関東学生女子Cブロックリーグ戦優勝
- ・青山 怜央
2009年日本学生6位
2009年トピーカップ日米大学対抗日本代表

サッカー部

- ・平成19年度第8回東北地区大学サッカー選手権
大会優勝
- ・平成19年度第56回全日本大学サッカー選手権大会出場
- ・平成20年度第9回東北地区大学サッカー選手権
大会優勝
- ・平成20年度第32回総理大臣杯全国大学サッカー
トーナメント出場

- ・平成21年度第10回東北地区大学サッカー選手権大会優勝
- ・平成21年度第33回総理大臣杯全国大学サッカートーナメント出場
- ・佐々木智昭（G K）、斉藤智志（D F）、寺嶋健太3年（D F）
平成19年度第22回デンソーカップチャレンジサッカー宮崎大会、北海道・東北学生選抜選手
- ・佐々木智昭（G K）
平成20年度第23回デンソーカップチャレンジサッカー南さつま市大会、北海道・東北学生選抜選手

自転車競技部

- ・桜井 正孝
国体種目別優勝、全日本個人選手権大会優勝、国体チームスプリント優勝

柔道部

- ・平成21年度東北学生柔道体重別団体優勝大会優勝
- ・平成21年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会出場（東北枠3校）
- ・全日本学生柔道優勝大会連続出場（東北枠4校）
- ・全日本基督教関係大学柔道優勝大会一部連続入賞



柔道部創部90周年記念祝賀会
本間会長あいさつ

水泳部

- ・東北地区大学体育大会男子総合優勝、同女子総合優勝
- ・北部学生選手権大会男子総合優勝、同女子総合優勝
- ・早坂 寿輝
日本選手権第22位
- ・湯村健太郎
100m自由形で東北選手初の49秒台樹立

スキー部

- ・全日本学生選手権大会総合21位
- ・工藤 詩乃
全日本学生選手権大会女子3部優勝
- ・秋山 章太
全日本学生スキー岩手高原大会2位（SGS）
- ・内田 寛
全日本学生スキースプリングシリーズ11位（GS）
- ・勝又 勇樹
全日本学生スキースプリングシリーズ16位（SL）

卓球部

- ・平成21年度東北地区体育大会男子団体優勝、同女子団体優勝
- ・東北秋季リーグ戦男子2位、同女子3位
- ・インカレ女子団体ベスト32
- ・吉田 康介
東北学生選手権大会男子シングルス3位
- ・谷 実咲
東北学生選手権大会女子シングルス2位
- ・三橋 将平
東北学生新人大会男子シングルス3位
- ・木村 俊彦
東北学生新人大会男子シングルス3位
- ・谷 実咲
東北学生新人大会女子シングルス3位

軟式野球部

- ・2004年東日本大会優勝
- ・2007年東日本大会優勝
- ・2008年東日本大会準優勝

バスケットボール部

- ・東北学生リーグ9連覇中
- ・韓国明知大学との交流定期戦の実施（平成7年から）

ハンドボール部

- ・平成21年度東北学生ハンドボール選手権大会2位
- ・青山学院定期戦、北海学園定期戦勝利

バドミントン部

- ・平成21年度東北春リーグ男子2位、同女子2位（インカレ出場）
- ・小関 裕也
平成21年東北選手権シングルス2位
- ・佐藤 尚己
平成21年東北選手権シングルス3位
- ・佐藤 若菜
平成21年東北選手権シングルス3位
- ・佐藤尚己・小関裕也
平成21年度東北選手権ダブルス3位
- ・佐藤若菜・工藤香織
平成21年度東北選手権ダブルス3位

ボート部

- ・中田 将紀
2009年河北レガッタ・シングルスカル優勝

ヨット部

- ・青山学院大学定期戦優勝
- ・斎藤・三浦組
東北学生ヨット個人選手権大会4377・4位
- ・小林・遠藤組
東北学生ヨット個人選手権大会3979・5位
- ・小林・遠藤組
東北学生ヨット選手権大会3979・2位
- ・斎藤・三浦組
東北学生ヨット選手権大会4377・4位

ライフル射撃部

- ・2008年春季関東学生選手権大会AR8位
- ・2008年秋季関東学生選手権大会AR6位

- ・2008年全日本学生選手権大会AR11位
- ・志賀 勝謙
2008年大分国体出場

ラグビー部

- ・東北地区大学ラグビーリーグ1部5連覇中（平成16年～）

レスリング部

- ・東日本学生レスリングリーグ戦2部リーグ3位
- ・遠藤 将貴
2009年度東日本学生レスリング連盟春季新人戦Bグループ55kg級優勝
- ・中田 真樹
2009年度東日本学生レスリング連盟春季新人戦Bグループ55kg級2位
- ・星 明宏
2009年度東日本学生レスリング連盟春季新人戦Bグループ60kg級優勝
- ・後藤 大地
2008年度東日本学生レスリング連盟秋季新人戦Bグループ66kg級優勝
- ・渡部 雅大
2009年度東日本学生レスリング連盟春季新人戦Bグループ74kg級優勝
- ・佐山 仁
2009年度東日本学生レスリング連盟春季新人戦Bグループ74kg級2位
- ・佐藤 翼
2009年度東日本学生レスリング連盟春季新人戦Bグループ84kg級2位

ワンダーフォーゲル部

- ・夏合宿（北アルプス白馬岳・8月）

我が部期待の選手

アメリカンフットボール部

- ・武田 亘倫
東北リーグを代表するタイトエンド
- ・鹿内 健孝
東北リーグを代表するストロングセーフティ
- ・佐藤 大輔
東北リーグを代表するランニングバック

空手道部

- ・堀籠 善樹
2年生ながら宮城県代表（重量級）として新潟国体出場
- ・小原 正貴
東北新人大会で1年次優勝（現2年生）

剣道部

- ・佐藤 佳世
都道府県大会代表や全日本女子剣道選手権大会に出場

硬式野球部

- ・阿部 博文
仙台六大学で現役最多勝投手、通算最多勝（33勝）更新を狙う
- ・瀬川 喬介
強肩強打の捕手、プロ注目の好選手

ゴルフ部

- ・加賀谷姉妹
双子のトップアマゴルファーとしてスポーツニュースにも取り上げられ話題となっている
- ・加賀谷成美（妹）
1年生ながら日本女子アマ・日本女子学生に出場。秋季Cブロックリーグ戦でも個人のメダリストとなる
- ・加賀谷麻美（姉）
妹同様に日本学生に出場

自転車競技部

- ・桜井 正孝

競技者としてずば抜けた勝負センスと爆発的なスプリントを誇り、研究心も旺盛で自己管理もしっかりしている。

柔道部

- ・阿部 芳行
1年、2年次と連続して全日本学生体重別選手権大会81kg級出場
- ・小林 弘典
昨年、1年ながら全日本学生大会100kg超級出場。今年も団体戦で活躍

水泳部

- ・早坂 寿輝
今年入学の1年生ながら全国大会で活躍

スキー部

- ・山尾 祐純
高校時代からインターハイ、国体等で活躍。期待の新人
- ・高橋 輝
高校時代からインターハイ、国体等で活躍。期待の新人

卓球部

- ・谷 実咲
1年生ながら東北学生選手権大会で準優勝
- ・吉田 康介
東北学生選手権で3位入賞、団体戦でのほとんどに勝利

バスケットボール部

- ・鈴木 航
シューターとして各種大会で高得点をマーク、チームの中心選手（3年）
- ・遠藤 悠亮
サウスポールの194cmのセンタープレーヤー。次年度の主力として期待（1年）
- ・岩田 祥子
入学当初からスターターとして各種大会で活

躍。大きな飛躍に期待（1年）

・佐々満里奈

スターターとして各種大会で活躍。大きな飛躍に期待（1年）

バドミントン部

・小関裕也、佐藤尚己

パワー、バランスともに抜群で東北チャンピオンへ期待の選手

ボート部

・中田 将紀

2008年インターハイ、クオードプル2位、国体クオードプル3位入賞

ヨット部

・小林文恵、遠藤衣純組

ともに1年生であるが東北インカレで2位。全日本大会での活躍に期待

ライフル射撃部

・志富 勝謙

今年度から主におこなうスモールポアライフルに期待

・菅原 大志

今年度から主におこなうスモールポアライフルに期待

・半澤 直樹

今年度から主におこなうスモールポアライフルに期待

・石本 真澄

2009年新潟国体最終予選2位

・平井 雅絵

北海道強化指定選手候補

レスリング部

・星 明宏

全日本大学選手権大会等において一部校レギュラー陣と互角の試合

各部OB・OG会から

山岳部

山岳部の現役、OBによる主な合同登坂活動を紹介します。下記以外にも近年は各OBが独自にヒマラヤ方面にて活動しています。

昭和33年 厳冬期蔵王全山縦走（初走破）

昭和34年 積雪期日高連峰

昭和40年 積雪期日高連峰全山縦走

昭和41年 ヒンズークシュ山脈 コー・イ・バンダコール登頂（東北学院創立80周年記念事業）

昭和58年 ヒマラヤ山脈 チュルー西峰登頂

平成02年 ヒマラヤ山脈 アイランドピーク登頂

自転車競技部

・自転車競技部は野暮ったい男所帯と思われるが、実は歴代において女子部員が1名おります。

柔道部

・今年で創部90周年を迎え、10月3日に盛大に記念式典が開催されました。参加者は160名で大学からは柴田副学長、辻学生部長のご出席をいただき、また、青山学院大学柔道部OB会からの出席や北海学園大学森本理事長（柔道部長）からの多大のご厚意をいただき盛大に開催することができました。

・今年の3月に第11回TG杯柔道大会（東北学院大学柔道部長杯争奪柔道大会）を開催しました。当初は宮城県内の公立高校柔道部と学院高校を対象としての招待試合でしたが、昨年は創部90周年の冠をつけて県外にも参加オープンとし約30校が参加し、宮城県武道館において開催しました。今年もほぼ同数でありましたが、こちらからも増える傾向にあり、その中から本学志望の選手が増えることに大きな期待をしているところです。

卓球部

- ・女子部が創部50周年を迎えます。
- ・OB会主催の菊田杯の第50回大会を3年後に控えて準備を進めております。会場は前大会から泉の体育館を利用しております。

バスケットボール部

小藤恭正氏の訃報、そして功績

前バスケットボール監督の小藤恭正さんが9月17日に逝去された。

昭和47年から監督を長年務められ、現在のバスケットボール部の土台を作り上げた功績は非常に大きく周知されている。小藤さんは物怖じせず、誰とでも親しくなれるという人柄で、バスケット界の著名で多様な指導者と積極的に交流を持ち、各人のバスケットボール理論を学び、自分のチームにあった戦術を考案し、学生たちとともに学院バスケットを全国的なレベルに近づくまで根気強く指導していた。

また、同氏は、卓越した企画力を発揮し、創立90周年には韓国の強豪・漢陽大学を招き、いち早く韓国バスケットの真髄であるパスを多用するパッシングオフenseを取り入れた。その後も高レベルな韓国の多くの大学が仙台を訪れ交流を持ち日韓学生の架け橋となる活動を行ってきた。常に指導に当たっては、国際的な視野で貪欲に優れているものは取り入れる姿勢で指導していた。この取り組みは現在でも脈々と我が部に受け継がれている。

部の監督以外でも中心的な役割を果たしている。大学体育会の監督による「監督会」の立ち上げ初代会長を務めた。学外でも東北学生バスケットボール連盟の会長として、また日本学生バスケットボール連盟の常任理事として学生バスケット界の発展に貢献した。

なお、長年にわたる活動に対して平成20年11月には全日本大学バスケットボール連盟より功労賞を受賞している。

9月26日の葬儀には韓国籠球聯盟の会長や全日本大学連盟の会長が集い、また全国各地から多くの教え子が参集し、小藤さんの死を惜しんだ。

ハンドボール部

豊田忠夫ハンドボール部前OB会長が平成21年7月16日に逝去されました。

フェンシング部

今年で創部55周年になります。ちなみに過去の創部記念祝賀会は下記のとおりです。

平成6年8月に創部40周年記念パーティ

平成16年8月に創部50周年祝賀会を開催しました。

ボート部

昭和44年卒のOB5名で1996年より河北新報社主催の河北レガッタにナックルフォアで13年連続出場しております。この中で優勝6回の実績を誇ります。

ヨット部

- ・高橋順一氏の叙勲を祝う会

平成21年9月6日にホテルメトロポリタンで盛大に開催され、TGスポーツOB連合会の本間会長からご挨拶をいただきました。

- ・現在、部員が4名と非常に少ないながらも、OB諸氏の現役練習参加、OB会より現役活動費等の支援等を行っております。卒業後もOB会としての組織立っての支援をしており、海から離れていくOBを奮起しております。今後も皆さまのご理解とご協力をいただければと思います。

陸上競技部

- ・黒澤直次郎先生が本年8月22日に逝去されました。8月26日に葬儀、告別式があり多くの方々への参列をいただきました。
- ・これまでの陸上競技部としての主な記念事業
 - 平成12年 ～黒澤直次郎先生退官お祝会開催
 - 平成15年 ～競技部創部85周年記念祝賀会と記念誌の発行
 - 平成20年 ～競技部創部90周年記念祝賀会

レスリング部

- ・創部60周年記念を2009年内に実施予定です。
- ・村井政人氏（平成5年卒）が青年海外協力隊員

としてインドネシアで指導。

応援団

・ここ数年、応援団執行部員の減少傾向は歯止めがかからず、活動する上で大きな支障となっている。スポーツのみならず文化・芸術活動を幅広く応援する目的を持つ団体としては行動面で小回りとなっている。しかし、現在は少数ながら日夜を問わず各分野に積極的に関わっており、学生会の中でも大きな役割を果たしていることは頼もしい限りである。

少数精鋭の志（こころざし）のある若者の魂を大事に育てていきたいと思って活動しているOB会です。体育会OB会各会のご支援もよろしくお願いいたします。



陸上競技部創部90周年記念祝賀会



第19回青山学院対東北学院大学対抗陸上競技大会

今年で創部90周年
(1919年~2009年)

東北学院大学南六会 (OB会)
会長 豊嶋 良一

事務局：980-8511 仙台市青葉区土樋 1-3-1 東北学院大学学事課内
Tel.022-264-6461

東北学院大学柔道部後援会
会長 今野 隆吉

T G スポーツ O B 連 合 会 会 則

(名称・組織)

第1条 本会は、T G スポーツ O B 連 合 会 と 称 し、東 北 学 院 大 学 体 育 会 各 部 O B、並 び に 応 援 団 O B、及 び 理 事 会 で 推 薦 し た 者 を 以 っ て 組 織 す る。

(目的)

第2条 本会は東北学院スポーツの振興と発展のため、物心両面の援助を図るとともに、会員相互の融和と団結を図り母校の隆盛に寄与することを以って目的とする。

(事務局)

第3条 本会の事務局を東北学院大学内に置く。

(事業)

第4条 本会は第2条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

1. 優秀団体、優秀選手の表彰
2. 指導者講習会
3. 体育会所属学生への指導、援助
4. 会員名簿の管理
5. 交流会
6. その他、会の運営に必要な事業

(会員)

第5条 本会の会員を下記二種に区分する。

1. 正会員
2. 特別会員

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

1. 会 長 1名
2. 副 会 長 3名
3. 理 事 長 1名
4. 常 任 理 事 15名
5. 理 事 各部より2名、並びに会長委嘱の者若干名
6. 事 務 局 長 1名
7. 監 事 2名
8. 顧 問 若干名
9. 名 誉 会 長、相 談 役、参 与 を 置 く こ と が で き る。

(選任)

第7条 役員を選任は次による。

1. 会長並びに理事長は理事会において推薦され総会で承認を得る。
2. 副会長は会長が指名する。
3. 理事は各部OB会から選出された者と会長委嘱の者とし、理事会を構成する。理事会は理事長、常任理事をそれぞれ推薦、選出し、総会の承認を得る。
4. 事務局長は理事会において選出する。
5. 監事は総会において会員の中から選出する。
6. 顧問は各OB会等から推薦された者、及び本会の発展に特に功労があった者を会長が委嘱する。
7. 名誉会長、相談役、及び参与は会長が委嘱し、総会で承認を得る。

(役員の仕事)

- 第8条
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
 2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行する。
 3. 理事長は事業の実務の執行を指示し管理する。

4. 常任理事、及び理事は具体的な実務の執行を行なう。
5. 事務局長は本会の円滑な運営のため事務全般を担当する。
6. 監事は定時総会において監査の結果を報告する。
7. 顧問は重要事項につき会長の諮問に応じる。

(任期)

第9条 役員任期は2ケ年とする。但し再任を妨げない。

(会議)

第10条 本会に次の会を置く。

1. 総会
2. 常任理事会
3. 理事会
4. 専門委員会

第11条 総会は年一回開催し、会長がこれを招集し議長となる。臨時総会は必要ある時に、会長がこれを招集する。

第12条 総会は本会の最高の意思決定事項とし、次の事項を決議する。

1. 事業報告及び収支決算
2. 事業計画及び収支予算
3. その他重要な事項

第13条 常任理事会、理事会及び専門委員会は理事長が必要に応じて召集する。

第14条 総会、常任理事会、理事会の議事は、出席者の過半数を以って決定し、可否同数の場合は会長の決するところによる。

(会計)

第15条 本会の会費は、体育会各部OB会、並びに応援団OB会より年会費を徴収する。その他、助成金、寄付金を以って会の運営費に充てる。

第16条 本会の会計については、事務局で管理する。

第17条 本会の事業、会計年度は1月1日に始まり同年12月31日に終わるものとする。

付 則

1. 会則

本会則は昭和48年（1973）11月22日から施行する（会名称は春秋会）

平成2年（1990）2月6日、会則の一部改正（総会）

平成6年（1994）10月28日、会則一部改正（臨時総会）

会名称変更。春秋会からT GスポーツOB連合会に

平成14年（2002）2月12日、会則の一部改正（総会）

副会長枠数、役員選任方法の一部改正

平成18年（2006）2月16日、会則の一部改正（総会）

幹事名称を理事名称に変更。専門委員会の設置、会計年度の変更

平成19年（2007）2月15日、会則の一部改正（総会）

終身会費の廃止

平成20年（2008）2月14日、会則の一部改正（総会）

第2条、スポーツ推薦等と、の文言を削除

2. 年会費は別に定める。
3. 表彰規定は別に定める。
4. 専門委員会規定は別に定める。
5. 慶弔規程は別に定める。

T G スポーツ O B 連合会 役員 〈平成21・22年度〉

顧問 平河内健治 東北学院理事長
星宮 望 東北学院長・大学長

相談役 辻 秀人 学生部長 (文学部) 工藤 哲男 元本会副会長 (2代監督会長)
佐々木俊三 体育会長 (教養学部) 佐藤 正 前本会副会長 (3代監督会長)
クストファー・ロング 体育会副会長 (文学部) 伊藤 哲夫 前本会副会長
仁昌寺正一 体育会副会長 (経済学部) 高橋 嘉男 元本会事務局長
井上 普就 体育会副会長 (経営学部) 荒 孝夫 学生課長
澤野 和博 体育会副会長 (法学部) 石井 勝雄 校友課長
佐々木桂二 体育会副会長 (教養学部)

参 与 加盟団体各OB会会長

役 職	氏 名	卒年・学科	所 属 部	備 考
名誉会長	江馬 成夫	S25専経	山岳部	前本会会長
会 長	本間 良一	S33文経	サッカー部	宮城県サッカー協会
副 会 長 (3名)	仲嶋 一雄	S41文経	ハンドボール部	ハンドボール部OB会長 (OB会長枠)
	森 俊博	S48経商	空手道部	モリプレゼンス(株) (会長指名枠)
	栗野 真	S52経経	ライフル射撃部	監督会長 (監督会長枠)
理 事 長	高橋富士男	S45法法	柔道部	柔道部師範、副部長
常任理事 (15名)	鈴木 浩	S37文経	陸上競技部	陸上競技部OB会長
	熊谷 聖	S41文経	弓道部	弓道部OB会長
	増田 量吉	S42文経	ボート部	ボート部監督、監督会副会長
	小野 潔	S43経商	ボクシング部	ボクシング部OB会長
	佐藤 順	S45経商	サッカー部	サッカー部総監督
	藤井 治夫	S45経商	ワンダーフォーゲル部	ワンダーフォーゲル部OB会幹事
	武田三子雄	S47経経	剣道部	剣道部副部長
	伊藤 恵一	S48経商	ソフトテニス部	ソフトテニス部OB会幹事長
	伏見 善成	S50経商	準硬式野球部	準硬式野球部監督、監督会副会長
	中野 信朗	S50経経	スキー部	スキー部副部長 (※事務局兼務)
	石山 仁	S50経経	バスケットボール部	バスケットボール部男子監督
	千葉 幹雄	S53経経	自転車競技部	自転車競技部OB会副会長
	伊藤 昌俊	S53経経	硬式野球部	硬式野球部OB会幹事長
大友 富雄	S55経経	ゴルフ部	ゴルフ部監督	
山内 茂夫	S57経経	バレーボール部	バレーボール部副部長	
理 事	加盟団体より各2名			
監 事	高橋 正博	S40文経	合気道部	合気道部監督
	菅野 健	S42文経	バレーボール部	バレーボール部顧問
事務局長	山田 純	H06経商	ラグビー部	ラグビー部副部長
事 務 局	石田 伸彦	H06教人	水泳部	水泳部副部長
	尾形 依子	H08経経	ヨット部	ヨット部コーチ

〈事務局〉 〒980-8511 青葉区土樋1-3-1 東北学院大学学生課内 TEL 022-264-6474 (中野)

平成21(2008)年度 T GスポーツOB連合会 専門委員会

委員会	委員	卒年	所属	審議(検討)内容
総務	*中野 信朗	S50経経	スキー部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勲功章受賞者の選考 ・ 会則、内規等の検討 ・ 大学等関係部署との連携 ・ 会員名簿の整理
	小野 潔	S43経商	ボクシング部	
	伊藤 恵一	S48経商	ソフトテニス部	
	伏見 善成	S50経経	準硬式野球部	
	伊藤 昌俊	S53経経	硬式野球部	
財務	*熊谷 聖	S41文経	弓道部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財源安定策の検討 ・ 年会費の納入確認 ・ 収支決算書の作成 ・ 収支予算案の作成
	増田 量吉	S42文経	ボート部	
	藤井 治夫	S45経商	ワンダーフォーゲル部	
	武田三子雄	S47経経	剣道部	
	千葉 幹夫	S53経経	自転車競技部	
企画広報	*鈴木 浩	S37文経	陸上競技部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員参画拡大策の検討 ・ H P の管理・更新 ・ 各企画の立案・実施 ・ 機関紙の発行 ・ 大学スポーツ新聞部との連携 ・ 報道関係との連携・情報交換 ・ シンボルマーク、グッズ等の検討
	佐藤 順	S45経商	サッカー部	
	石山 仁	S50経経	バスケットボール部	
	大友 富雄	S55経経	ゴルフ部	
	山内 茂夫	S57経経	バレーボール部	

(*～委員長)

理事長	高橋富士男	S45法法	柔道部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常任理事会、総会、参与会等の開催案内 ・ 議事録の作成 ・ 専門委員会の記録、保存 ・ 本会の運営に必要な事務全般
事務局	*山田 純	H06経商	ラグビー部	
	石田 伸彦	H06教人	水泳部	
	尾形 依子	H08経経	ヨット部	

(*～事務局長)

TGスポーツOB連合会 役員名

(平成21年度)

No	部 名	OB会名 (東北学院大学名を省略)	OB会長 (参与)	理事 (各部2名)	連絡者	常任理事	OB会設立	会員数
1	合気道部	合気道部OB会	根本 仁志	高橋 正博	高橋 正博	高橋 正博	S36	330
2	アメリカンフットボール部	体育会アメリカンフットボール部OB・OG会	佐々木栄明	曾根 邦敏	高橋 公晴	高橋 公晴	S53	270
3	ウエートトレーニング部	ウエートトレーニング部OB会	戸部 正	戸部 正	戸部 正	戸部 正		150
4	空手道部	空手道部OB会	小野 研治	須藤 直照	高橋 光夫	高橋 光夫	S25	311
5	弓道部	弓道部OB会	熊谷 聖	熊谷 聖	熊谷 聖	熊谷 聖	S34	350
6	剣道部	剣道部後援会	佐藤 純	武田三子雄	武田三子雄	武田三子雄	S32	500
7	航空部	体育会航空部OB会	斎藤 邦雄	鳩岡 協一	斎藤 邦雄	斎藤 邦雄	S35	120
8	硬式陸球部				亀山 政博			
9	硬式野球部	硬式野球部OB会	佐々原育夫	岩淵 靖夫	伊藤 昌俊	伊藤 昌俊	S53	717
10	ゴルフ部	ゴルフ部OB会	小田桐和久	大友 富雄	萩生恵治郎	大友 富雄	S40	233
11	サッカークラ部				三浦 宗昭			
12	サッカー部	サッカー部OB会	松谷 一夫	佐藤 順	鈴木 義夫	佐藤 順	再S45	610
13	山岳部	山岳会	松倉 和義	遠藤 繁	氏家 正裕	千田 光彦		237
14	少林寺拳法部	少林寺拳法部OB会	本間 盛男	二階堂 哲	天俣 善則	門脇 邦知	S44	270
15	自転車競技部	体育会自転車競技部OB会	小野目博昭	小野目博昭	千葉 幹雄	宮井 信吉		110
16	自動車部	体育会自動車部OB会	山田 敏郎	佐藤 正	石井 幸雄	石井 幸雄	S34	150
17	柔道部	柔道部南六会	豊嶋 良一	高橋富士男	佐藤 勇三	佐藤 勇三	再S46	530
18	準硬式野球部	準硬式野球部OB会	天江 皓一	伏見 善成	八島 康治	伏見 善成	S28	390
19	水泳部	体育会水泳部OB会	桐ヶ窪多門	石田 伸彦	井手上 喬	石田 伸彦		
20	スキー部	体育会スキー部OB会	新関 守	中野 信朗	松本 宏一	松本 宏一	S50	160
21	スキューバダイビング部	スキューバダイビング部OB会	武田 幸雄	武田 幸雄	下山 正人	武田 幸雄	S54	200
22	スケート部	体育会スケート部OB・OG会	山内 浩	山下 良夫	川崎大一郎	真壁 康弘		
23	相撲部	相撲部OB会	菊地 正博	海老田富夫	齋藤 恵	齋藤 恵		
24	ソフトテニス	TGクラブ	佐藤 脩	伊藤 恵一	猪股 正芳	伊藤 恵一	T2	
25	体操競技部	体操競技部OB会	斎藤 英夫	渡辺 良一	須田 充彦	渡辺 良一		
26	卓球部	卓球部OB会	樋口 光成	増田 孝夫	村松 範明	増田 孝夫	S34	320
27	軟式野球部	体育会軟式野球部	菅野 昭彦	福田 克俊	鈴木 勝博	福田 克俊		250
28	ハンドボール部	ハンドボール部OB会	仲嶋 一雄	阿部 修	小西 和男	仲嶋 一雄	S39	260
29	馬術部			渡辺 勉	梅 泰彦	渡辺 勉		
30	バスケットボール部	バスケットボール部OB会	菊池 哲	石山 仁	帆足 直治	石山 仁	S30	453
31	バドミントン部	体育会バドミントンOB・OG会	浜畑 堯爾	川内 賢一	菊地 正	菊地 正	再H4	335
32	バレーボール部	バレーボール部西村会	佐藤 孝一	高橋 純夫	山内 茂夫	山内 茂夫	再H15	320
33	フェンシング部	つるぎ会	佐藤 彰一	工藤 健二	頼藤 俊夫	工藤 健二		162
34	ボウリング部	体育会ボウリング部OB会	芳賀 正良	館崎 智信	館崎 智信	館崎 智信	S52	80
35	ボート部	仙台艇友会	鈴木 和雄	増田 量吉	角張 正	増田 量吉	S49	104
36	ボクシング部	ボクシング部OB会	小野 潔	小野 潔	遠藤 博志	小野 潔	S53	120
37	洋弓部			高橋 充	高橋 充	高橋 充		
38	ヨット部	体育会ヨット部OB会	佐藤 出	大久保寿人	山田幸太郎	山田幸太郎		244
39	ライフル射撃部	ライフル射撃部OB・OG会	三文字一郎	栗野 眞	佐久間栄造	栗野 眞	S54	200
40	ラクロス部				佐藤 和香	佐藤 和香		
41	ラケット部	TGラガークラブ	高橋 良夫	高橋 俊哉	志小田正一	山田 純	S44	512
42	陸上競技部	陸上競技部OB会	鈴木 浩	鈴木 浩	金ヶ崎伸也	鈴木 浩	S35	780
43	レスリング部	体育会レスリング部OB会	菅野 紀夫	佐々木幸藏	早坂 友行	早坂 友行	S29	195
44	ワンダーフォーゲル部	ワンダーフォーゲル部OB会	勝又 清明	藤井 治夫	松尾 高志	勝又 清明		363
45	応援団	応援団後援会	山城 正温	高橋 嘉男	海老田保夫	高橋 嘉男	S32	400



TGスポーツOB連合会